

社会福祉法人 宮城厚生福祉会

2016 年度事業報告

はじめに

私たちは憲法で保障される「権利としての社会保障」の実現をめざし、日々の事業を行っています。日本国憲法は国民の平和的生存権、基本的人権、幸福追求権、生存権などの権利を謳い、侵すことの出来ない永久の権利と定めています。私たちはこの憲法の理念に基づき、福祉を必要とされる方々の権利を守る担い手として、福祉事業を展開してきました。

現在の社会情勢・社会福祉制度の実態は、憲法が掲げる理念から遠くかけ離れた状態です。保育園の待機児童の問題は解消されず、就労できない保護者の貧困が子どもの貧困につながる負の連鎖が引き起こされています。背景には保育士不足もあると聞きますが、全国に70万人の潜在保育士がおり、処遇を改善すればまた働きたいという保育士も5割近くに上ります。特養待機者は全国で36.6万人いますが、一方で1割の事業所が職員不足のために全床開所が出来ずにいます。また、別の調査では全国の特養のうち2割強に空床がある（みずほ情報総研調査）状態となっています。公定価格・介護報酬の抜本的引き上げによる職員の処遇改善が必要です。

日本の相対的貧困率は16.1%（2013年調査）と急速に悪化し、OECDの中で下から7位となっています。これに対し、様々な団体・研究機関より所得の再分配機能のレベルが低く、社会保障制度の不足が指摘されています。社会保障制度は国の財政上の理由から、毎年自然増の圧縮のために改悪を重ねており、現場の献身的な奮闘に期待するばかりでは支えきれず底が抜ける寸前と言えます。

国民の暮らしが困難になる一方、防衛費は5兆円を超える過去最高の当初予算を計上し、年々増加させています。安全保障法制、盗聴法、集団的自衛権の行使容認、共謀罪など、戦争が現実化する法律の制定とあわせ、憲法改定に向けて急速に議論が進められています。これらの動きに注視し、私たちは、現在の憲法を活かす取り組みを進めます。

2016年度は、社会福祉法改正、介護保険法・子ども子育て支援新制度（2015年）などの諸制度が大きく変化する情勢の下での事業活動でした。とりわけ、かつてない職員採用の困難さがありました。2016年4月には多賀城市に地域密着型特別養護老人ホームを建設いたしました。稼働できていない他、休止せざるを得ない事業所もあり、今後もこの傾向は続くものと見られます。私たちの事業所のみならず、地域福祉を守る課題であり、様々な団体と社会的問題として発信していく取り組みを継続します。

2016 年度は岩切保育所の建替えに伴う民営化事業を受託した件では、法人を挙げて開園に向け奮闘しました。仙台市の実践を引き継ぎ、引き続き地域に信頼される事業所として発展をしていくことに力を注ぎます。

2017 年 3 月 26 日 法人設立から 20 周年が経過しました。20 周年記念誌を作成する中で、これまでの法人の歴史を振り返り、改めて諸先輩方が当時どのような想いで法人を設立し、どのような苦労があったのか—その想いを引き継いでいこうと決意を新たにしました。法人の理念は、私たちの法人のみならず、福祉制度の改善をしていくことで「安心して住み続けられるまちづくり」を進めることであるということが、歴史そのものから読み取ることが出来ます。

困難な情勢の中でこそ、地域福祉の重要性は増しており、困難となっている方々へのアンテナを巡らせることが重要になります。過去の歴史から私たちが地域で果たしてきた役割とその存在意義を再確認し、今後の私たちの取るべき方針を歴史・理念に照らして導き、職員一丸となって奮闘をする組織作りを進めていきます。

高齢者福祉施設 宮城野の里

昨年度は施設長の交代からスタートし、職員の入れ替わりもある中を宮城野の里の2016年度はかなりのスピードで駆け抜けた感がありました。

各事業所には派遣職員が配置され、いろいろな意味で職員の意識は変わりました。

利用者様、入居者様に喜んでいただけるケアと選んでいただける事業所として、各事業所が着実に歩を進めることができましたと思います。しかし、経営面からみますと通所介護の稼働率と収入の落ち込みは、昨年と比較して厳しい結果になりました。特に認知症対応型通所介護の落ち込みは大きいものでした。しかし各事業所間の連携と改善策を実行に移した結果、年度末には成果が数字に繋がってきたところです。

今年度からスタートした総合事業については、仙台市は届け出の必要がなく見なし指定で現行相当サービスを提供でき、要支援の利用者様には継続してサービスの提供ができることになりました。新しい基準緩和のサービスについては人員不足、場所、報酬などいくつかの課題もあり参入の目途は立ちません。

施設の周囲でも小規模事業所や、株式会社が運営している所は、閉鎖した事業所や縮小したところが出ています。要支援の受け入れを中止した事業所もあります。そんな中で、ショートステイは稼働率、収入ともに実績を延ばすことができました。厳しいと言われたショートステイですが、地域の方、ケアマネ、利用者様ご家族に信頼され、すべての職員が努力した結果であると思います。

今後は地域包括ケアシステム構築が進む中で、様々な矛盾や課題が出てくると思いますが、利用者様、ご家族が困らないように、地域の方が安心して暮らせるように、尚一層努めて参りたいと思います。

【 福田町デイサービスセンターⅠ 】

1、利用者動向

今年度は、予算に対して伸び悩む1年でした。登録状況としては日に30名の登録があったとしても、実際の利用は8割前後の利用でした。1月の利用率81%の理由として、インフルエンザや風邪症状による体調不良者等の欠席が目立ちました。

1) 利用者実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
実人数(予防)	23	22	22	23	21	18	19	19	19	19	19	20	244
実人数(介護)	67	69	66	67	69	68	69	70	69	67	70	71	824

延人数（予防）	100	106	112	111	106	93	93	96	103	95	100	116	1232
延人数（介護）	550	567	534	554	572	581	549	573	598	487	542	604	6711
利用率	83.3	86.3	83	85.3	83.6	86.3	82.3	85.6	90	81	89.3	90.3	85.5（平均）
平均介護度（予防）	1.3	1.4	1.3	1.4	1.4	1.4	1.5	1.5	1.5	1.3	1.5	1.6	1.4（平均）
平均介護度（介護）	1.7	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.8	1.7	1.7	1.6	1.7	1.6	1.7（平均）

2) 入退所者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	2015	2016
開始者数	2	5	2	3	3	1	1	1	1	4	4	3	30	30
終了者数	4	6	3	0	3	1	2	3	4	1	0	2	25	29

3) 利用開始理由

開始理由	交流目的	ロコミ	家族の介護負担軽減	見学体験で気に入った	入浴目的	認知症進行予防	他デイより移行
人数	16		1	4	2	1	6

4) 利用終了理由

終了理由	入院	死去	入所	デイⅡへ移行	本人が希望しない	家族が希望しない	リハへ移行	転居	その他
人数	9	6	7		4	1	1		1

2、具体的な取り組みについて

①個別ケアの充実に向けて

・職員間での情報伝達、共有に向けての取り組みとして、2ユニットや担当制を導入する目標でしたが、人員体制の変動、役割の再編成等があり未達でした。しかし、デイⅡ会議の中で、利用者様の生活意欲の向上やADL改善に向けた機能訓練サービスの提供をなんとかしていきたいと、少人数での外出行事への取り組みを計画し、実施することができました。

・献立表の作成を2週間毎作成し、利用者様へ配布しました。献立を見ながら、ご自宅でも参考にしているとの声を聞くことができました。

・家族懇談会は年間予定通り4回実施しました。（意見交流会、認知症サポーター養成講座等）4回目の家族懇談会では、1年間のご様子としスライドで写真紹介をし、デイサービスでのご様子を紹介しました。

・内部研修は、法令にそった研修を中心に実施しました。

②数多くのデイサービスの中から選ばれる一つになる為に、地域の情勢を把握しニーズの高い、魅力あるデイサービスづくりに向けて

- ・地域のボランティアさんとの交流が活発な1年でした。積極的にボランティアさんとの連絡調整を行う中で、関係性を築き、定期的にデイサービスへ足を運んで頂き、利用者様の満足度を高めることができました。また、行事のお知らせとして毎月行事カレンダーを発行し、利用者様へ配布することで楽しみを持ってデイサービスに通って頂いています。

- ・デイサービスの利用目的の入浴支援について利用者様のニーズが高い傾向があります。特に、機械浴（リフト浴）や個別対応入浴（ユニット浴）の需要が増え、それによる延利用者の利用回数が増えました。

③介護予防への取り組みについて

- ・今まで通りのサービス提供を実施してきました。今後は、総合事業に切り替わる為、どのようなサービス提供をしていくべきか、早急に検討し、利用者様ご家族、サービス関係者へ情報提供できるよう努めます。

【 福田町デイサービスセンターⅡ 】

1、利用者動向

今年度は、新規利用者の獲得に非常に困難な年でした。開始利用者より終了利用者が2倍、実人数も20人を切ってしまう今までにない状況で11月より稼働率低迷し予算未達の状況でした。新規獲得に向けての営業活動も間々ならず、1月より職責者が居宅回りで宣伝活動を強化し、宮城野の里全体でも職責者を中心として、稼働を上げる為の取り組みを実施しました。

1) 利用者実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310
定員	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
利用実人数	24	24	24	23	23	22	20	19	17	18	20	20	254
利用延人数	241	240	244	244	238	195	218	184	166	150	158	206	2484
利用率	77.5	76.6	78.3	78.3	73.3	62.5	70	59.1	53.3	52.5	55	63.3	66.6
平均介護度	2.8	2.8	2.7	2.7	2.8	2.7	2.9	3.0	2.9	3.0	3.2	3.1	2.8

2) 入退所者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	2016	2017
開始者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	10	4
終了者数	1	0	1	1	0	3	1	1	0	0	1	0	10	9

3) 利用開始理由

開始理由	利用開始 合計	交流目的	ロコミ	家族の介護 負担軽減	見学体験で 気に入った	入浴 目的	認知症 進行予防	デイ I より 移行
人数	4	0	0	3	1	0	0	0

4) 利用終了理由

終了 理由	利用終了 合計	入院	死去	入所	本人が希 望しな い	家族が希 望しな い	リハへ 移行	転居	その他（小規模多 機能）へ移行
人数	9	1	0	5	1	1	0	0	1

2、具体的な取り組みについて

①専門性ある認知症ケアの実践

- ・利用に繋がらないケースでも、相談を受けた時点で「今認知デイでできることは何か」と考え、利用者様の家庭訪問や行事へのお誘い等を実施する中で、生活の暮らしぶりを知る事ができました。
- ・毎月の会議の中で、定期的に認知症の病気の理解についての学習会が出来なかったので、次年度は実施していきたいです。

②利用者様、ご家族の様々な事情に合わせ柔軟なサービス提供による家族介護負担の軽減

- ・日々の連絡帳へのコメント記載については、丁寧に記載するよう心掛けました。毎回写真を付ける事はできませんでしたが、季節行事、ご利用者の誕生会、毎月の写真付きカレンダーの配布をしました。ご家族より「写真付きカレンダーや誕生会の写真等、デイサービスでの様子が見えてとてもいいね」と好評なので、今後も継続していきたいと思います。
- ・ご家族希望時の振替え利用の受け入れを迅速に対応しました。
- ・ご希望時間での送迎を実施しました。中には、送迎時間によっては利用回数を増やしたいとのご要望も受けているので、今後は外部委託している介護タクシーを活用し、利用者様のご希望時間の送迎により受入枠を広げたいと思います。
- ・独自サービスでの、荷物預かり、タオルの貸し出し、提供時間外での床屋への付き添い対応を実施しました。次年度も継続します。
- ・家族懇談会は年4回実施、今年度より運営推進会議を年2回開催しました。家族懇談会や運営推進会議の中で、認知症の利用者様の理解や認知症デイサービスにこれから求められる課題を確認する事ができました。

③数多くのデイから選ばれ、地域、ケアマネ等に信頼され、評判の高いデイサービスを目指して

- ・今年度の利用率平均 66.6%と、計画 75%に未達の状況でした。原因としては、外部への働きかけが不足したことでした。1月より居宅回りで宣伝活動を強化し、顔が見える関係づくりをしていく中で、新規や利用相談を受ける事が増えてきました。今後も利用者様ご家族の意向に添ったケアを提供していきたいと思います。

【短期入所生活介護施設福田町】

1. 利用者動向

今年度は、病院から退院後にショートステイを利用し、自宅に戻る前に生活のどの部分にどのような介助が必要なのか確認したい、そして自宅内の環境整備やサービスの準備をしたいという希望が多くありました。ご自宅での様子を伺い、ショートステイでもご自宅のように安心して過ごしていただくというご利用とは違い、自宅で安心して生活するため、今まで以上にご利用者の持っている力を引き出すケアということを考える1年でした。

毎月3～6名の新規のご利用者がいらっしゃり、はじめは定期的なご予約はなく、利用することも迷っていた方が、定期的なご利用へとつながったケースも多く、職員の自信となると共に安定した利用率になりました。

1) 利用者実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計・平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	366
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
利用実人数	68	72	74	75	70	69	85	73	75	79	74	80	74.5
利用延人数	585	614	590	592	604	571	628	581	599	649	567	644	602
利用率	97.5	99	98.3	95.5	97.4	95.2	101.3	96.8	96.6	104.7	101.3	103.9	98.9
平均介護度	3.24	3.01	2.94	2.98	2.97	2.9	2.93	2.9	3.01	2.95	3.01	2.87	2.97

2. 取組みについて

1) 安心して、心地よく過ごせるショートステイを目指します

ケアカンファレンスの時間を多く持ち、ケアの内容の検討と合わせて、お一人お一人の日中の過ごし方の充実についても話し合うことができました。変更したケアについては評価も行い、以前に比べ、記憶に頼ったケアは減ってきたと感じます。

今年度、毎月行事を行い、その時の写真をご家族にお渡しし、どのように過ごされていたかお伝えしました。

日々の記録については、生活のご様子が十分に伝わる記録としては不十分な部分もあるため、次年度も取り組んでいきたいと思っています。

2) 丁寧なケアを常に意識し、明確な根拠をもとにケアができるようにします

悪気はないが、ご利用者の立場にたったらおかしいと感じるのではないかという発言や対応について、会議等にて話し合い、共通認識にしてきました。例えば“少しお待ちください”という発言について、よくない発言であることを再度認識すると同時にどうしてよくない発言なのかを改めて考え、そのような場面はいつなのか、そのような場面時はど

ういう対応をしていくべきなのかを話し合い、自分たちの何気なく当たり前に行っていることについて振り返ることができました。同時にご利用者お一人お一人のケアについて話し合う機会は多くもってきましたが、そうではない自分たちの発言や対応について話し合う時間が今まで少なかったように感じました。

今後も慣れの気持ちの対応になってしまわないよう、自分たちの言動や行動を意識し、振り返りもしていきたいです。

3) 目標稼働率 98%

平均稼働率 98.5%と達成することができました。しかし、今年度は空床案内が十分にできておらず、月ごとの稼働率には差がありました。その分利用日延長や緊急の受け入れの対応もできたのですが、次年度は定期的に空床案内を出していく必要があると思いました。

今後も緊急利用の受け入れや長い期間のご希望についてもできるだけ対応していきたいと思います。

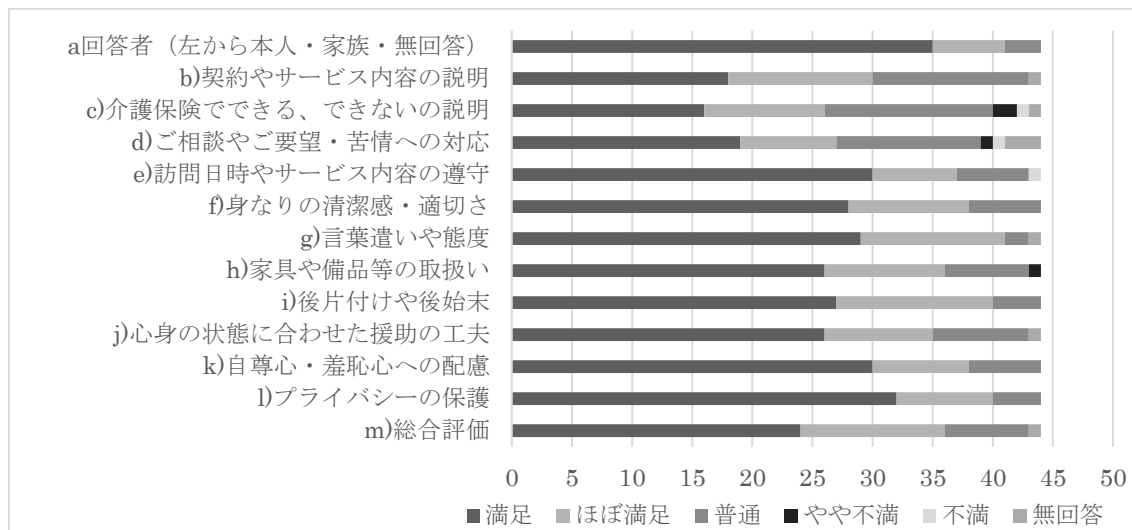
【ヘルパーステーション宮城野の里】

1. 質向上の取り組み

訪問担当者のみのカンファレンスが定期的に行えるようになり、情報共有、振り返り、相互チェックがし易くなりました。また、計画目標の具体化をすすめたことで、担当者間の意識のズレの防止や、ケアの統一が図り易くなりました。

研修は、個別研修計画に基づき実施することができました。特に「訪問介護とは・ケアプランとは・アセスメントとは…」は基本的内容ではありますが、サービス提供～報連相～関係者との連携～ご利用者満足度などの全てに影響する為、改めて力を入れて学習しました。

2. 意向・満足度調査結果（回答数 44 件/52 件）



① 「満足」「ほぼ満足」が7割以下の項目について

- ・ b) の契約やサービス内容の説明と c) の介護保険でできる、できない、の説明が低い原因は、期待したイメージと、実際のサービスとの不一致による為だと思います。特に「日常生活を営む為に、最低限必要な家事の内、本人自身ができない、本人分の家事」という介護保険の家事支援の範囲にご理解が得られない事例は多いのですが、説明をさらに丁寧に行い、ご納得頂いた上で提供できる様に努めていきたいと思ひます。
- ・ d) の相談や要望・苦情等の内容は「介護保険でできる、できない」がほとんどで、さらに「ヘルパーは直接答えず、改めてサ責から回答する」という事業所内ルールがあったが為の回答遅れも原因だと思います。サ責による説明は勿論、今後は担当ヘルパーも正しい知識を持ち、誰もが迅速かつ丁寧に対応していきたいと思ひます。

② 「満足」「ほぼ満足」が8割以上の項目について

特に、1) プライバシーの保護については「満足」が 100%で無いことが問題だと思います。これまでの言動に問題が無かったか、今一度振り返りを行いました。この他の項目も、限りなく 100%を目指していきたいと思ひます。

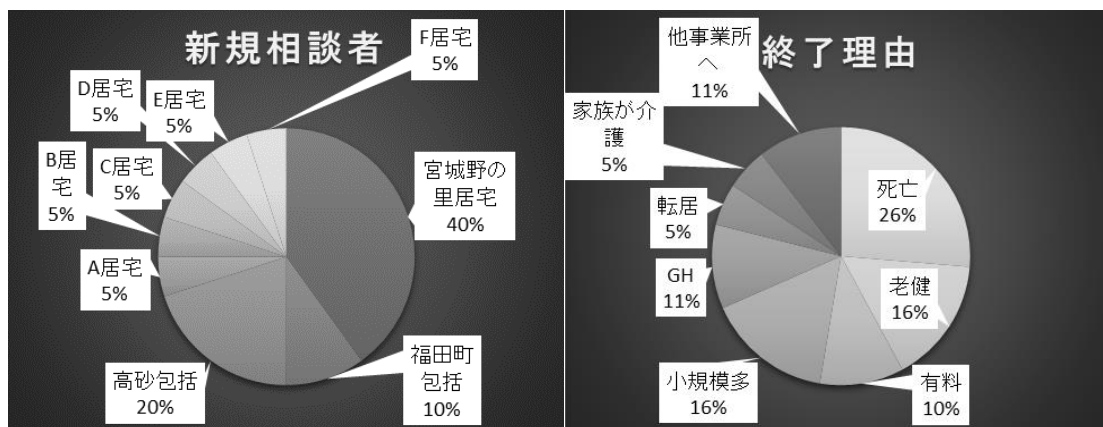
3. 経営面

訪問件数の減少は、職員数の減少による派遣可能数の減少によるものです。ここは長く勤めてくれる登録ヘルパーさんの多い職場でしたが、今年度は体調や家庭の事情による時間短縮や退職が度々ありました。特に朝夕土日に働ける職員が減り、重度者の受入れに影響が出ました。経費の少ない事業にて、現時点ではまだ辛うじて純利益を生み出すことが出来ていますが、今後、さらに体制の悪化が進めば、それも難しくなるかもしれません。

2016年度		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	前年
利用実績	全体	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	366
		実人数	59	60	60	61	59	56	58	54	55	55	52	54		
		延べ回数	585	594	538	521	519	442	459	432	425	389	408	483	5795	7979
		平均利用回数	19.5	19.2	17.9	16.8	16.7	14.7	14.8	14.4	13.7	12.5	14.6	15.6	15.9	21.8
	保険	実人数	58	59	59	60	58	56	57	53	54	54	51	53		
		延べ回数	560	572	514	500	502	428	437	406	397	363	386	456	5521	7646
		平均介護度	1.6	1.9	1.9	1.7	1.7	1.8	1.4	1.4	1.3	1.3	1.1	1.5	1.6	2.1
	上記内記	身体介護	159	170	145	149	156	96	94	79	72	83	104	114	1421	2814
		身体生活	102	102	94	85	77	76	82	64	65	37	69	93	946	1021
		生活支援	130	124	89	82	77	65	79	82	87	68	50	61	994	1657
		介護予防	169	176	186	184	192	191	182	181	173	175	163	188	2160	2154
	保険外	実人数	3	3	4	2	3	2	3	2	2	2	3	2		
		延べ回数	25	22	24	21	17	14	22	26	28	26	22	27	274	333
利用受付		利用相談	1	3	2	1	1	1	2	1	1	2	3	2	20	20
		受入拒否	1	3	0	1	0	1	1	0	0	0	0	2	9	4
		開始者	0	0	2	0	1	0	1	0	2	1	4	0	11	16
		終了者	0	1	1	1	2	1	2	1	3	4	1	2	19	17

利用相談は年間 20 件あり、その内 11 件を受け入れましたが、空きが無く 9 件をお断りしました。利用終了は年間 19 件でその内 2 件は、利用者様都合では無く、職員体制の減少という事業所都合で終了（他事業所へ移行）したケースです。これらの受け入れ拒否が無ければ、昨年度よりも利用者様が 3 件増えていたという計算になります。収入減もさることながら、必要として下さっている方々にお応えできなかったことには悔いが残ります。

けれども、職員体制が悪化の一途をたどる中、下半期に新規 8 名、特に、常勤が一名減った 1 月以降に新規 4 名を受け入れることができたのは、従来ルールを疑ってみて取り組んだ業務改善と、予定外の訪問にも対応してくれた登録ヘルパーさん達の協力の賜物です。



【居宅介護支援宮城野の里】

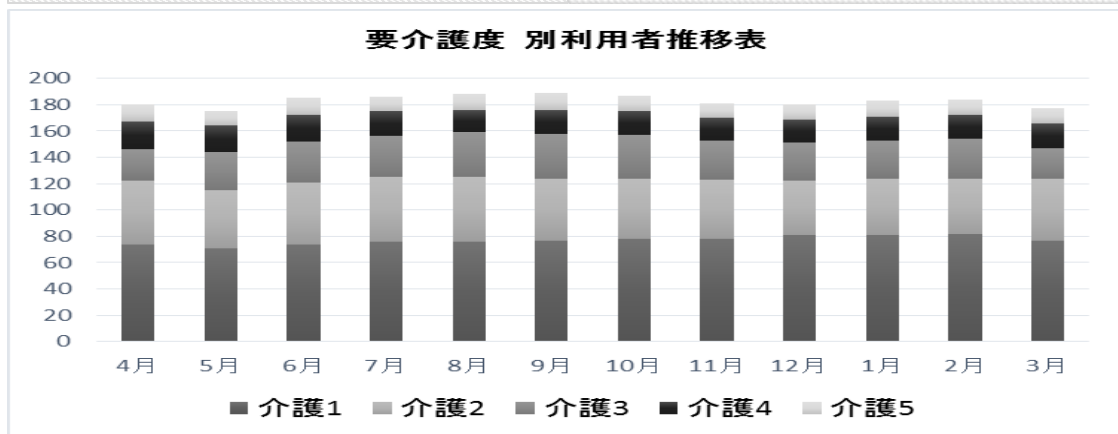
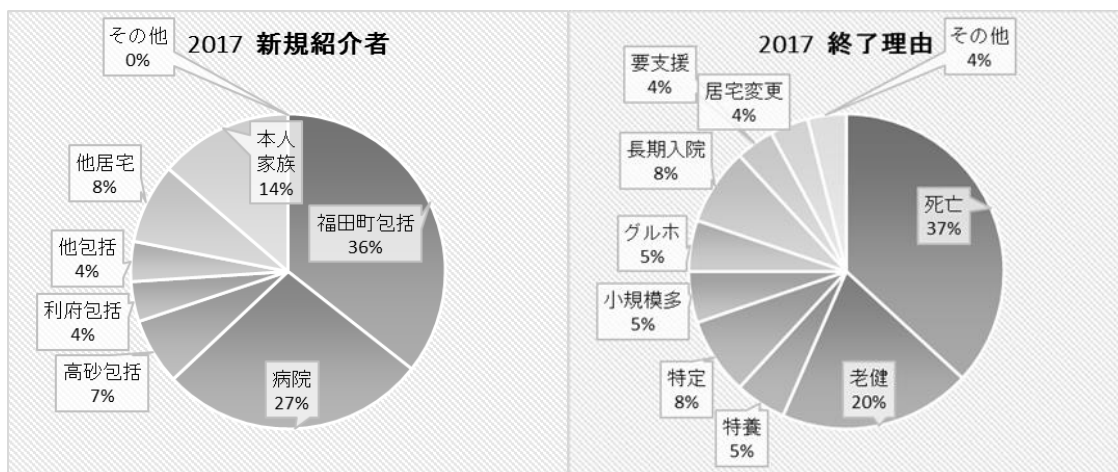
1. 地域の相談窓口としての立場の確立

「待たせない、断らない、次に繋がる対応」を合言葉に、チーム一丸となって迅速かつ丁寧な対応に努め、新規ご利用者は 73 名受け入れ、給付管理数は過去最多の 2123 件でした。宮城県指定情報公表センター情報によると、宮城野区 36 事業所中第 3 位になっています。

2016年度		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	前年
請求	介護	174	169	177	181	184	183	184	178	174	173	175	171	2123	2002
	予防	8	8	8	8	9	8	7	8	10	10	10	9	103	88
	計	182	177	185	179	193	191	191	184	184	183	185	180	2226	2090
利用 受付	開始	6	8	12	7	6	2	5	2	5	6	8	5	72	62
	終了	10	8	3	6	3	2	11	5	5	2	12	9	76	50

今年度の特徴は、病院からの紹介数の増加、入所および死亡による契約終了数の増加、契約から終了まで一年未満の方の増加です。これらには、制度改革による入院期間の短縮化や在宅医療の充実、施設数が増えて入所し易くなったことなどが影響していると思われます。

新規 紹介		福田町包括		病院		高砂包括	利府包括	他包括	他居宅	本人家族	その他	合計
	今年度	26		20		5	3	3	6	10	0	73
	前年度	25		6		0	6	0	3	22	9	71
終了 理由		死亡	老健	特養	特定	小規模多	グルホ	長期入院	要支援	居宅変更	その他	合計
	今年度	28	15	4	6	4	4	6	3	3	3	76
	前年度	18	10	6	0	0	4	6	3	2	1	50



2. ケアマネジャーとしての資質・ケアプランの質の向上

① 情報共有

毎週1回会議を行い、支援困難事例や担当ケースの変化について、都度6名のケアマネジャーで情報を共有、周囲の提案・助言を受けながら対応策を検討しました。相談し易い環境の元で、一人で抱え込まずに相談・助言し合うことができました。

② 研修の実施

個別研修計画に基づく研修の他、ご利用者、ご家族、相談員など相手の立場に立って「ケアマネジャーに求められるマナー・接遇とは…」を話し合う機会を作りました。より良い対応が各担当者の連携を円滑化し、ご利用者本位のケアマネジメントに繋がるということを、過去の行動を振り返りながら改めて学びました。

③ リスクマネジメント

不満、苦情、請求やプラン交付など小さなミスも見逃さずリスクマネジメントに取り組みました。一つのミスから複数ヒントを得、改善サイクルが回る事の楽しさは、職員のモチベーションアップにも繋がりました。

④ 満足度・意向調査結果（回答数 96 件/180）

【福田町地域包括支援センター】

1. 担当圏域の状況と課題

震災から6年、仮設住宅も閉鎖され、田子西には新たに3町内会ができ、圏域で27町内会となりました。人口増加とともに、高齢化率は18.67%で昨年に比べ2%程度増加し、それに伴い相談件数も平均で106件と増えている現状があります。

団地やアパートが多い地域があるためか、単身高齢者や認知症・精神疾患・身寄り無し・経済的困難など複数の課題を抱えた方の相談が増えています。最近では震災の影響があるのか、アルコールの相談も増えています。また、同居の家族がいても介護負担や家族関係、認知症への理解不足から虐待に繋がるケースも多々あり、包括の課題となっています。

課題として、圏域の社会資源不足が挙げられます。生活支援型サービスに参入する事業者が少ないと同時に、地域にボランティア団体などがなく受け皿の問題が挙げられます。

2. 2016年度の総括

① 予防プラン件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	151件	153件	165件	158件	159件	155件	164件	159件	160件	159件	162件	163件
委託件数	(41)	(42)	(42)	(41)	(41)	(41)	(40)	(38)	(43)	(41)	(40)	(37)
新規	4	5	6	1	3	4	3	1	3	5	4	3

②相談件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
110件	108件	130件	104件	89件	97件	77件	71件	121件	146件	123件	94件

③社会資源の把握

- ・足りない社会資源について地域の方と共有する機会を作り地域課題を明らかにしました。
- ・要支援者にアンケートを取り、生活に実態把握も行いました。

⑤ 認知症の取り組み

・サポーター養成講座を年2回開催し地域の方へ普及啓発しました。また各町内会のサロンで認知症についても普及啓発を行いました。今年度は講師として3回参加しており、宮城野高校でもサポーター養成講座を行うことができました。

・認知症の支援困難事例を仙台市の認知症初期集中チームに依頼し他職種との連携で早期の対応に努めました。

・認知症（ひまわり）カフェを7月から毎月行い、初期の方や相談に繋がる方もいました。また、地域のボランティアの方が3名定期的に来てくれています。

・地域密着型事業所の方との集いを年3回行い、その中で編集会議を開き、認知症ケアパス（地域版）の作成を行いました。今後地域の方に配布していく予定です。

⑥ 地域ケア会議と包括ケア会議の開催

・地域ケア（個別）会議を年3回開催しました。（7月、11月、3月）地域の参加者事業所などと高齢者の課題や支援方針などの情報を共有し役割を確認、ネットワークの構築を図りました。

・包括ケア会議は各小学校区で3回、全体会議を1回、計4回開催しました。内容としては、圏域の現状や包括の活動報告を行い、地域の課題について話し合いました。

⑦ ケアマネ支援としては、年2回高砂包括と合同で7月「SOS ネットワーク等」、10月「地域での看取りを考える」の学習会を開催しました。また、宮城野区の包括合同で「ケアマネのつどい」として4回研修会を行っています。

⑧ 権利擁護の学習会を地域の方からのアンケート結果をもとに「特殊詐欺について」「成年後見制度」、「DV と高齢者虐待」についてのテーマで年3回開催しました。

⑨ 包括の広報誌を年4回作成しPRに努めました。（4月、6月、9月、3月）内容は包括の活動紹介や自主サークルの紹介をしました。

⑩ 介護予防教室は年20回開催しました。その中で認知症教室は5回開催しました。また、「こころの健康について」をテーマに2か所で行いました。

⑪ 地域の理美容店や病院に包括のチラシを配布し、金融機関前で消費者被害防止のティッシュ配りなど、周知や啓発を行いました。

【ケアハウス宮城野の里】

1. 入居者動向

1) 入居年数

(2017. 3. 1)

	0～5年	6～10年	11～15年	計
男性	6	0	1	7
女性	17	3	3	23
計	23	3	4	30

2) 年齢状況

年齢 (歳)	61～65	66～70	71～75	76～80	81～85	86～90	91～	合計	平均年齢
男性	0	1	0	0	1	5	0	7	84.5
女性	0	1	2	5	7	6	2	23	82.3
合計 (人)	0	2	2	6	8	11	2	30	82.8

3) 退所者数・理由内訳

退所後	特養	死亡	他施設	自宅	合計
人数 (名)	0	1	0	0	1

4) 要介護認定者・内訳

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数 (名)	13	3	6	0	1	0	0	24

5) 介護保険サービス利用者数・内訳

サービス 種別	訪問介護		通所介護	通所リハ	福祉用具 レンタル	訪問看護	居宅療養 管理指導	ショート
	生活援助	身体介護						
人数 (名)	13	6	2	9	8	2	6	1

6) 入院者：7名（内訳：心不全1名、白内障手術1名、脳梗塞1名、大腸出血1名、
真珠腫手術1名、変形性膝関節症手術1名、ペースメーカー移植1名）

7) 車椅子利用者：1名

8) 入居待機者数：54名（2017.3.1現在）

2. 取り組み

今年度は退所者が1名で、入居者の入れ替わりが少なかった為、平均年齢の変動はほとんどありませんでしたが、介護認定を受けた方が多くみられました。

介護保険の認定更新などの際にどのような暮らしを望むかを聞き取ることができ、処遇計画に取り入れることができました。

入居者間のトラブルについては施設職員が介入し改善できることは少なく、その方のお

話しをお聞きすることにとどまることが多くありました。

介護予防の取り組みとして、ケアハウス懇談会内で認知症サポーター養成講座を開催し25名の方に受講していただくことができました。入居者の中には認知症が中程度の方も数名おり、職員も再確認することができました。昼食前の体操は、入居者の要望としては多くありますが継続が難しかったです。

個々の趣味の為外部へ出かける方もいますが、介護認定を受けている方が8割以上いる為支援者なしでの外出は難しくなっています。ケアハウス内で少しでも他者との交流を図れるよう様々な行事を企画し普段お部屋で過ごすことが多い方も参加する姿がみられました。また、カラオケとコーラスのサークル活動やケアハウスでの喫茶は入居者様の楽しみの場として定着しています。

3. サービス提供地域のニーズの把握

宮城野区、多賀城市、利府町、七ヶ浜町等の研修会・会議等への参加や、各サービス担当者からの情報収集により、地域のニーズ・実情の把握に努めました。

4. 恒常的にケアプラン適正化を図れる仕組み作り

ケアプラン点検は、毎月自己点検と管理者による点検を実施しました。また今年度は年2回内部監査（県連・地協）を受け、記録等の整備に努めました。

【部門】

【食養】

1、今年度の総括

今年度は、デイサービス、ショートステイの利用者様の「生の声」を聞くため、ケアハウスの配膳をしていた調理員がデイサービス、ショートステイのご飯・味噌汁の盛り付け、配膳を手伝いに行くようにしました。食事に特徴的な方の、顔と名前が一致するようになりました。

食材の購入については、台風の影響で各地の農産物に被害が出て、特に北海道の耕作地への被害が大きく野菜の高騰が続き、11月より冷凍野菜を使用しました。

2、具体的な取り組み

1) 利用者様、入居者様の要望に応える食事

- ① 病気で食べられない食物や、嗜好に合わせた調理に努めました。また外部監査の際、多くの要望に応えた調理を評価されました。

(ア) 食事委員会が行った食事アンケートで、今年はショートステイのアンケート用紙に記名して頂く事により、家庭での食生活をより理解することができました。

- ② 日々の食事が飽きないよう、毎月行事食を行うことが出来ました。今年度は食事委員会が企画した「洋食の日」や「職員の献立公募」を実施しました。普段と違う食事スタイルでフォークやスプーンで食べる食事に利用者様に変えていただきました。「献立公募」では今まで取り組んでいない、昔を懐かしむ料理が出てきて、利用者様・入居者様に好評でした。

2) 利用者様・入居者様の身体状況に合わせた介護食・療養食の提供

ショート利用者様に治療食の食種が増えたため、個別に献立を作成し、料理も別に調理して提供することができました。

夏の暑い時期に水分摂取が困難な方のために、ポカリゼリーを作り提供しました。

去年から取り組んでいる、酵素を使用し肉や魚を柔らかくする調理を、勉強会を開き継続して取り組んでいます。

3、今年度の行事食

月	行事名	献立
4	観桜会	中巻き寿司、カニ真丈桜蒸し、海老と野菜の黄身酢かけ 桜豆腐、清し汁
5	端午の節句	散らし寿司、若竹煮、サラダ、清し汁
6	宮城野寿司開店	握りたてお寿司の食べ放題
7	七夕会	梅シソご飯、茄子と海老の南蛮漬、豚じゃがきんぴら トマトのツナソース、ヨーグルトゼリー、茶ソバ汁
8	ビアパーティー	焼き鳥、帆立のバター焼き、フランクフルト、枝豆
9	敬老の祝い膳	赤飯、刺身盛り合わせ、茶碗蒸し、もずく酢、フルーツ キノコ汁
10	芋煮会	芋煮汁、おにぎり、卵焼き、一夜漬、梨
	宮城野寿司開店	握りたてお寿司の食べ放題
11	秋刀魚炭火焼大会	秋刀魚炭火焼、ゆかり御飯、けんちん汁、柿
12	クリスマス会	ロールパン、ビーフシチュー、キャベツの彩りサラダ、 茸のオイスターソース、ワインゼリー、ホタテスープ
	大晦日	ナメタ鰯の煮付け、お煮しめ、おかか和え、なめこ汁
1	お正月	お雑煮、あんこ餅、手作りのお節料理（鰯の照り焼き、黒豆、 有頭海老酒煮、数の子、文化巻き他
	新年会	赤飯、刺身の盛り合わせ、天ぷら、茶碗蒸し、 プリン、清し汁
2	ステーキ祭り	焼き立てステーキとサラダ、スープ
3	雛祭り	ちらし寿司、独活の黄身酢かけ、蒔の甘辛炒め、清し汁

＊上記以外に各事業所で食事イベントを行っています。

【事務】

1. 目標

利用者様・入居者様に快適に過ごして頂けるようまた、経営の安定化が図れるように各事業所、部署と連携し支援します。

2. 具体的取り組み

- ① 施設の窓口であるとの意識を持ち接遇に努めました。ご本人、ご家族を始めボランティアさん、他事業所、パン購入や外部団体の会議室使用、面会者、業者など「施設の顔」として丁寧な対応に心がけました。
- ② 職責者会議では、経営面での現状や課題など分かりやすい説明に努めました。また必要物品の購入などにもコスト管理の必要性を各事業所職員にも認識してもらうことができました。
- ③ 施設や備品の老朽化に伴う修理・修繕に関しては利用者様・入居者様の安全を第一として、営業に影響がないよう配慮し、優先順位をつけ実施することができました。今後も修理・修繕箇所は増えることが想定され計画的に実施していきたいと思います。
- ④ 社保運動や学習会などに積極的に参加しました。しかし職員へ広めることの課題が残りました。

介護老人福祉施設 十符・風の音

2016 年度は変化の年となりました。その始まりは地域密着型特別養護老人ホーム風の音サテライト史の開所です。法人内で初めてのサテライト型の施設であり、人員配置等制度上基準が緩和されている分、そのやりくりについては柔軟性が求められることを実感しています。地域密着型の施設であるため、ご家族の協力を得られやすいことを利点とし、関係各所からお力添えを頂きながら安定した運営を目指して参りました。

デイサービスセンター木の実も利用者減少を理由に、定員 30 名から 25 名に減らし運営して参りました。しかしながらショートステイを含め、利用者の施設入居等が進み、軒並み稼働率が落ち込む結果となりました。キャンセル理由の分析も併せて行いましたが、施設入居以外では自己負担金の引き上げ等でやむを得ず利用を差し控える方がいるもの実状です。キャンセル理由が見える分、今後の介護保険制度改定に向けて、現場の声を大きくしなくてはならないと感じます。施設全体としては、利用者や家族の高齢者施設に求めるニーズが多様化し、事故やけが、病気や看取りに対する扱いに心を割いた 1 年となりました。

介護業界全般で人員確保の困難さが取り沙汰されていますが、風の音ショートステイでも法定人員到達できず、2017 年 4 月からベッド数を 10 床減らして運営する決断を致しました。利用者には選ばれる施設であることは勿論、職員が介護という仕事にやりがいを持ち、働き続けたいと思える職場づくりにも力を注いでいきたいと思えます。

2017 年度も変化の煽りを受け続けることは必至と考え、開所後 12 年間の経験と知識、そして職員の力を結集し、足元を固め揺るがない風の音を作っていきたいと思えます。

I 事業規模

1) 長期入居

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31
定員	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
延利用者可能数	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,450	1,550
延利用者実績数	1,453	1,483	1,443	1,483	1,486	1,410	1,499	1,470	1,516	143	11,307	
利用者/日	48.4	47.8	48.1	47.8	47.9	47.0	48.4	49.0	48.9	4.6	389.9	0.0
利用率	96.9	95.7	96.2	95.7	95.9	94.0	96.7	98.0	97.8	9.2	779.8	0.0
利用者実数	48	49	48	48	48	47	49	49	49	47	47	50

2) ショートステイ(短期入所)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
延利用者可能数	600	620	600	620	620	600	620	600	620	620	580	620
延利用者実績数	511	530	511	537	520	472	559	514	563	512	515	
利用者/日	17.0	17.1	17.0	17.3	16.8	15.7	18.0	17.1	18.2	16.5	17.8	0.0
利用率	85.2	85.5	85.2	86.6	83.9	78.7	90.2	85.7	90.8	82.6	88.8	0.0
利用者実数	84	68	75	81	72	72	72	71	70	70	72	

3) デイサービスセンター(通所介護)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	25	24	26
定員	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
延利用者可能数	650	650	650	650	675	650	650	650	650	625	600	650
延利用者実績数	564	531	532	552	543	515	502	527	499	471	463	
利用者/日	21.7	20.4	20.5	21.2	20.1	19.8	19.3	20.3	19.2	18.8	19.3	0.0
利用率	86.8	81.7	81.8	84.9	80.4	79.2	77.2	81.1	76.8	75.4	77.2	0.0
利用者実数	62	58	60	60	61	57	56	55	52	53	51	

4) 全体予算対比

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予算合計収入	32,502,000	33,395,000	33,102,000	33,395,000	34,208,000	30,929,000	31,819,000	30,956,000	31,819,000	31,448,000	28,853,000	32,006,000
合計収入	31,711,792	31,513,416	30,839,405	33,089,703	31,782,993	29,489,864	31,783,524	31,099,735	31,915,305	29,966,755	28,278,215	
差額合計	-790,208	-1,881,584	-2,262,595	-305,297	-2,425,007	-1,439,136	-35,476	143,735	96,305	-1,481,245	-574,785	-32,006,000

II 各事業所報告

1 デイサービスセンター木の実

1. 目標に対しての評価・総括

目標：ご利用者様ひとりひとりが楽しいと思えるデイサービスを目指します。評価：A
・新しいレクリエーションや行事、また、施設内の散策やドライブに出掛け活発に行動され、ひとりひとり全員とは言えませんが、いきいきした姿や普段では見られない笑顔を引き出すことが出来ました。

・ご自分から要望を訴えられないような方や、大勢の方と過ごす事が苦手な方も穏やかに過ごせるように配慮しました。

2. 具体的な取り組みに対しての評価

①利用者様とのコミュニケーションの時間を増やすため、業務内容の見直し、改善を行います。評価：A

②レクリエーション活動の内容見直しを行い、新しいレクリエーション内容を考案して実

施します。評価：A

③小集団での活動を増やし、外出以外にも手先を動かす活動を増やします。評価：A

④職員のスキルアップのため、認知症・レクリエーション・介護技術・接遇などの内・外部研修に積極的に参加します。評価：B

・内部の勉強会はほとんど参加出来ています。外部研修は数名参加出来ています。体制を考慮しながら交代で参加出来るように配慮します。

⑤デイサービス会議・アセスメント会議を定期的（月1回）に開催します。

●サービス担当者会議などで得た情報を職員間で情報を共有します。安心、安全なケアを行うため、状況に合わせた統一したケアを提供します。評価：A

●必要に応じ介護職会議も開催し、介護方法やレク内容の見直しを行います。 評価：A

⑥ショートステイ、医務、食養と連携し、同一のサービスを提供できるよう情報を共有します。評価：A

3. 年間行事報告

4月	「お花見ドライブ」	10月	「芋煮会」「秋のおやつ作り」
5月	「定義山ドライブ」	11月	「仙台市園芸センタードライブ」
6月	「運動会」	12月	「クリスマスお楽しみ会」
7月	「流しそうめん」	1月	「新年会」
8月	「夏祭り」	2月	「バレンタインお菓子作り」
9月	「敬老会ドライブ」 （うみの杜水族館）」	3月	「桃の節句」 ちらし寿司・お雛様作り

2 ショートステイ

1. 目標に対しての評価・総括

利用者様、ご家族、ケアマネジャー、職員の架け橋の存在を目指します 評価：A

2. 具体的取組に対しての評価

①利用者様の自宅での生活を細かく確認し、迅速にユニット、医務、栄養士に出向き申し送りを行い、統一したケアを提供します。評価：A

②自宅に近い環境を整え、転倒アセスメントシートを活用します。転倒リスクを把握し、ショート利用中も安全に生活を送ってもらえるように努めます。評価：B

・転倒アセスメントシートの作成まで至りませんでした。また、自宅の環境を確認し、自宅に近い部屋の配置を検討していましたが、骨折事故が2件起きてしまう結果になりました。

③ボランティアの皆さんに協力してもらい、利用者様の好きなことや楽しみを日常生活の中に取り入れられるようにします。評価：A

④利用者様、ご家族、ケアマネジャーの声を大事にします。改善が必要な部分は迅速か

つ丁寧に対応していきます。評価：A

⑤ケアマネ事業所を月1回（第3週目）空き情報を持参し回ります。顔の見える関係作りに努め、稼働率アップを目指します。評価：A

⑥少しでも希望に添った送迎が行えるように勤務時間の調整と介護タクシー利用の検討を行います。評価：A

・ユニット職員と協力しながら、利用者様、ご家族の希望に添った送迎を行いました。

⑦デイサービスとの連携・情報共有を行い、ケアの統一を図ります。評価：A

3. 2016 年度平均介護度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
介護度	3.1	3.1	3.3	3.2	3.3	3.3
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
介護度	3.3	3.3	3.1	3.2	2.9	3.2

3-1 風の音長期入居

1. 目標に対しての評価・総括

先を見据えた実調を行い、空所期間の短縮を目指します。稼働率毎月 98%を意識します。

評価：B

・全体を通して計画的に行動が出来ませんでした。状況確認では介護度の低下・医療度増や他施設入居など、変化を伴う方が多く、先を見据えた実調にも結び付かず、入居者の選定に時間を掛けてしまいました。結果、目標稼働率を大幅に低下させてしまい、大きく課題の残る1年でした。

2. 具体的取り組みに対しての評価・結果

①定期的に申込者へ状況確認を行い、候補者の選定・実調に結び付けます。評価：B

・計画的に行動が出来ず、候補者の選定や実調に迅速に対応することができませんでした。その為お部屋を長期空床にしてしまい、稼働率の低迷に繋がってしまいました。

②利府町保健福祉課の担当職員と連携し、入居規定に沿った公平な判断から入居者様の決定を行います。評価：A

③入居前様と同じ暮らしが継続できるよう、ご家族やケアマネ、事業者への情報収集に努めます。評価：A

3. 2016 年度入居者動向

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
在籍数%	96.9	95.7	96.2	95.7	95.9	94	96.7	98	97.8	92.3	93.4	
入院者数				1 名		2 名	2 名					1 名
退居者数	3 名	1 名		2 名	1 名				3 名	1 名		1 名
入居者数	1 名	1 名	1 名	1 名			2 名		1 名		1 名	1 名

4. 介護度別

平均介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
4	1 名	2 名	12 名	11 名	21 名

3-2 施設ケアマネジャー

1. 目標に対しての評価・総括

自宅に近い環境下で、自律(自立)した生ができるように、ケアマネジメントの充実を図ります。評価：A

・特に認知症に対するアセスメントが困難でした。しかし、ユニット職員からの情報収集、看護師を通して認知症専門の看護師からのアドバイスを頂き充実したケアマネジメントができました。

2. 具体的取り組みに対しての評価・結果

①サービス担当者会議の早期開催を目指します(職員からの要請、状態変化時)。評価：A

②アセスメント内容を充実させます。評価：B

・医療知識の習得、認知症のアセスメントの能力が欠けていました。

③介護支援専門員の研修に参加します。評価：B

・日程調整つかず、対人援助技術の研修に参加できていません。ケアマネジメントを充実するためには、対人援助技術の向上が必須です。来年度は必ず参加します。

・介護保険施設介護支援専門員等研修会については、仙台市の施設のみに限定されたため不参加となっています。

3. 活動(研修)報告

7 月	介護支援専門員研修 専門研修 I	12 月	利府町 施設ケアマネジャー連絡会
8 月	利府町 施設・居宅合同ケアマネジャー連絡会	1 月	・アセスメント研修 ・「福祉用具も活用と身体拘束の防止について」の研修
9 月	仙台市介護認定調査員現認研修		

3-3 ユニットリーダー

1. 目標に対しての評価・総括

働きやすい環境作りに努めます。評価：B

・どのような職場だったら働きやすいか再度リーダーで意見をだしながら、ユニットごとの悩みを共有し、全体でいい環境を作れたらとは思いますが退職者も多くでており、課題が残ります。人がいないからできないのではなく、どうやったらできるかを考えていきます。

2. 具体的取り組みに対しての評価・結果

① リーダーが率先して施設内でのあいさつを心掛けます。評価：B

・中間報告同様、職員間での挨拶に課題が残りました。いつでも見られているという意識を持ち、挨拶の重要性を働きかけます。

② 各部署に新人さんが入った際、他部署に顔や名前を知って貰える仕組みを作ります。

評価：A

・回覧板があることによって、新人職員を周知することができた。全職員が目を通してなくても、ある期間になったら次の部署へ回しても良いと感じた。また、項目内容を検討したいと思います。

③ リーダー会議をリーダー同士の問題解決の糸口を見つける場にします。 評価：A

・少しずつですが会議でお互いの悩みを相談できるようになってきています。解決できるまでのアプローチの仕方を考えたいと思います。

④ 他施設見学を計画・実施し、知識・技術を深めます。評価：A

・岩手県大槌町のらふたあヒルズを見学させていただいた。リーダー同士意見交換の場を設けていただき、改めてユニットケアについて学ぶ場となりました。

⑤ 研修生の振り返りを担当し、リーダーとして成長します。評価：A

⑥ リーダーが中心となり、認知症の学習を行います。評価：A

⑦ 各部署の事業計画の進行状況を会議の場で確認し、振り返り・助言・修正を行います。評価：B

・報告まではできたが助言・修正はできなかった。今後は事業計画の項目を作り助言する時間を設けます。

⑧ 社会保障を学びます。評価：A

⑨ 施設のケア方針を理解します。評価：A

⑩ 毎月第4木曜日 リーダー会議を開催します。評価：A

4 地域密着型サテライト史

1. 目標に対しての評価・総括

目標：地域、ご家族、入居者様に愛される施設を目指します。評価：A

・ご家族の面会も多く、現場の職員がご家族との関係を作ることができています。多賀城市のボランティア推進活動の取り組みもあり、施設運営に協力をいただいています。

2. 具体的取り組みに対しての評価・結果

① 地域の活動を知り参加していきます。評価：B

・施設見学の受け入れ、活動の場所の提供を行なっています。地域への活動へ参加は行えませんでした。

②入居者様、ご家族との関わりを大事にし、情報共有を行い、必要な時に協力を頂ける関係を作ります。評価：A

・家族に、日頃の生活を相談することで、協力をいただくことができています。

③風の音サテライト史で暮らす1人1人の生活史、これからの暮らしを教えていただき、

個々に合わせた対応を行います。評価：B

- ・個人の生活の「何故」を、職員間で情報共有できずにいます。24 時間シートを活用していきます。

④ユニットリーダー会議、事故対策委員会、身体拘束廃止検討委員会、感染症・褥瘡予防委員会、身体拘束廃止検討委員会、誤薬撲滅委員会を毎月 1 回開催します。評価：A

- ・毎月開催することができています。リーダー会議は、途中から協力会議に変更し、情報を全体で共有、検討する場として開催しています。

⑤必要な事は、早期確認、検討、対策を行い、必要な流れを作ります 評価：B

- ・早期対策、検討が行えていない。多職種でその場で対応する仕組みを作ります。

⑥学習の機会設けます。参加できなかった職員へ伝達講習を行います。必要時、外部研修へ参加していきます。評価：B

- ・参加は行っていますが、伝達研修が行えていません。

Ⅲ 各部署

1 食養

1. 目標に対しての評価・総括

おいしく・安全な食事の提供を目指します。評価：B

- ・4 月から給食会社が変わり、味・量・献立のバリエーションも大きく変わりました。

高齢者施設向きの食事ではないため、ご利用者のニーズに合った食事の提供が困難になり、(メニューや食材の硬さ等)ご利用者が満足できるおいしい食事提供は出来たとは言えないのが現状です。

- ・異物混入や誤配膳が何件もあり、安全な食事の提供が出来ていない日もありました。

2. 具体的取組に対しての評価・総括

①個々に合わせた食事を提供します。評価：A

- ・嗜好調査を行ったことで、ご利用者の嗜好や食事の好みを知ることができました。おやつ種類の検討など、献立内容に活かすことが出来ました。

- ・毎日ご利用者の喫食状況を観察することが出来なかったもので、これからはもっとユニットへ足を運ぶ機会を増やせるようにします。その日々の状況を栄養ケアの内容にも活かしていきたいと思います。

②安全な食事を提供します。評価：A

- ・食事委員会での冷蔵庫チェックでユニットの衛生管理の問題点を検討することができました。また、食養会議で衛生管理の問題点について厨房職員と話し合い、改善策を検討することが出来ました。

- ・調理マニュアルの見直しを行いました。まだ全職員に周知しきれていない部分があるため、これから徹底して周知出来るようにしていきます。

③厨房作業の見直しを行います。評価：A

- ・作業工程表の見直しを行い、作業の効率化の検討をしていきました。ユニットの盛り付けも始め、ユニット職員の負担軽減に努めました。

④外部研修に積極的に参加し、自己研鑽に努めます。評価：B

- ・厨房職員を参加させることが出来なかったため、来年度は参加できるようにします。

3. 活動報告

4月 食養会議	10月 食養会議
6月 食養会議	12月 クリスマス食 年越しそば 食養会議
7月 七夕食 食養会議	1月 正月食 七草粥 非常食品の購入
8月 嗜好調査	2月 節分食 食養会議
9月 敬老食	3月 ひなまつり食 食養会議

2 事務部門

1. 目標に対しての評価・総括

●利用者、ご家族様が安心してご利用できる施設を維持できるようにします。評価：B

- ・施設管理の面で、業者対応が遅れてしまうことがありました。今後は遅れることの無いよう、努めます。

●職員が安心して働くことが出来る環境を維持します。評価：B

- ・上記同様、施設管理面においての対応の遅れにより、業務に支障が出るがありました。今後は、改善に努めます。

2. 具体的取り組みに対しての評価・結果

①利用者様、ご家族様の疑問に答えられるよう、介護保険制度について学習を行います。

評価：B

- ・業務に追われ、学習時間を取ることは難しかったです。今後は、各自で学習を進めます。

②職員の疑問に答えられるよう、就業規則に則した制度学習を進めます。評価：B

- ・介護保険制度の学習と同様、時間の確保は難しいのが、現状です。各自での学習を進めます。

③経理部として、より分かりやすい経営報告が行えるよう、資料作成を工夫します。また、経理、出納業務を正確に行うために、必ず予備資料を準備し、チェックを行います。場合によっては、ダブルチェックも行えるように職員間で検討します。評価：B

- ・経営報告の資料の工夫は、まだ行えておりません。要点をまとめて、より分かりやすい資料作り、経営報告が行えるよう、努めます

④施設管理では、現場からの要望に早急に応えられるよう、事務職員間での情報共有と修繕業者の手配等を行う手順書の作成を行います。評価：B

- ・職員間での情報共有、業者の一覧化による対応は行っていますが、手順書作成（ルール化）が行えておりません。今後、作成してまいります。

3. 活動報告

職員の入れ替わりや、サテライト史の開所により、業務整理が追い付かないまま、ただ追われてしまった一年だったように思います。

来年度は、業務整理を行い、より効率的に業務が行えるよう努めてまいります。

3 医務部門

1. 目標に対する評価・総括

入居者様・利用者様が、元気で過ごせるように医療的な側面から支援していきます。

評価：A

・4月より史が開所し慣れない中で混乱することもありましたが、入居者の様子を夕方に報告して情報共有を行っています。

・下半期には職員の移動がありました、2名の施設経験者の入職で仕事の改善につながっています。

2. 具体的取り組みの評価・結果

①一人ひとりの健康状態に合わせ、予測できる症状への対策や必要な情報の共有、医療的な側面から生活を支援していきます。評価：A

・体調を崩されている方に対しては、細かく観察を行い、嘱託医や関係部署との連携をはかりケアに結びつけています。

②他職種とのコミュニケーションを大切にし、小さな気付きも情報共有できるように努めます。評価：A

・サービス担当者会議に参加して、利用者の情報を共有し日常のケアに生かします。

③状態変化や事故発生時など、医療的な処置や対応が必要な時は、医療的見地から専門職として、ご家族様へ説明・対応していけるように努めます。 評価：A

・医療的な面では時間的な関係で家族に報告ができない事もありましたができるだけ行い、説明対応しています。受診もご家族に協力していただけるようになりました。

3. 医務状況報告

【年間予定】入居者様

4月	胃ろう交換	10月	胃ろう交換
9月	定期健診（病院受診）	11月	インフルエンザ予防接種
		3月	定期健診（採血のみ）

4 機能訓練

1. 目標に対する評価・総括

機能訓練計画書を作成します。評価：A

・急な状態の変化や看取りの方など、維持が難しく低下していく事が予想される方々への支援も充実していけるよう取り組みが必要と思いました。今後の取り組みにいかしてい

ます。機能訓練計画書の作成規定の間隔で行えていますが、入居の方々の更なる状態把握に努め適切な計画・支援をしていきます。

2. 具体的取り組みの評価・結果

①3 カ月ごとに機能訓練計画書を作成します。評価：A

・現在の ADL やできる事などを把握し、個々に合わせて作成しています。

②機能訓練計画書作成時に囲職員と入居者様の身体状況を把握し、今後の計画実施について、どのように実施していくか話し合い、入居者様の生活に合わせた実施をしていけるように努めます。評価：A

・入居者様やご家族の希望の意向、囲職員と可能な範囲で実行できるように話し合い、実施・改善してきています。今後も関わりを多く持ち機能訓練をすすめていきます。

5 LSA（ライフサポートアドバイザー事業）

1. 目標に対しての評価・総括

在宅で過ごされている高齢者世帯の方々に必要なサポートができるよう、利府町との連携を図ります。評価：A

・葉山町営住宅シルバーハウジングは月～金、石田・堀川・ゆのき・八幡崎町営住宅は月1回の訪問を行い、介護保険や生活保護、住宅に関する事の相談を受け、必要なサービスにつなげることができました。住宅にお住まいの方々や行政関係者とも顔なじみになり、より深い情報交換が行えるようになりました。その分個人情報取り扱いには十分注意していきたいと思います。

2. 具体的取り組みに対しての評価・結果

①毎週月～金（祝日を除く）葉山シルバーハウジングの訪問を行い、報告書を作成し町に提出します。評価：A

②毎月、石田・堀川・八幡崎・ゆのき住宅の訪問を行い、日誌を作成し町に提出します。評価：A

③年4回、利府町保健福祉課、都市整備課、地域包括支援センターとの LSA 会議に参加し、情報共有します。評価：A

④訪問時、介護保険や生活保護等の相談があるため、適切なサービスに結び付けられるよう、自己研鑽します。評価：A

⑤LSA の夜間対応について引き継が出来るよう申し送りに参加し、勉強会も開催します。評価：B

・当直業務を廃止してから夜勤リーダーに夜間帯の L S A 対応をお願いしていますが、年度初めに伝えた後はそのままになっています。実際に不在者ボタンを押さず外泊されたり、通信機器の異常で警備会社から連絡がきているため、その際の対応については、申し送りやマニュアル作成等、新たな伝達方法を検討する必要があると思われます。

3. 行事・個別外出状況 / 活動報告

4 月	L S A 定例会議	8 月		12 月	次年度見積もり
5 月		9 月		1 月	L S A 定例会議
6 月		10 月	L S A 定例会議	2 月	入札申請
7 月	L S A 定例会議	11 月		3 月	契約取り交わし

*前年度は 2 年に 1 度の入札でした。現状は法人で契約を行っていますが、2018 年度より法人から風の音で直接契約ができるよう申請を行いました。

IV 事故報告

1. 事故件数

区分 時間	転倒	転落・ 滑落	誤薬・ 誤配	火傷	暴力	紛失・ 破損	無断 外出	褥瘡	自傷	介護中の けが	原因不明の けが	その他	計
0-6	3	8	0	0	0	2	1	0	9	4	15	0	42
6-12	17	17	5	2	3	2	3	4	27	20	117	2	219
12-18	7	12	8	0	2	2	1	0	17	22	89	11	171
18-24	8	18	5	0	0	0	0	0	11	11	52	0	105
計	35	55	18	2	5	6	5	4	64	57	273	13	537

区分) 誤嚥・窒息、溺水、異食・誤飲、感染症の事故は 0 件

2. ヒヤリハット数

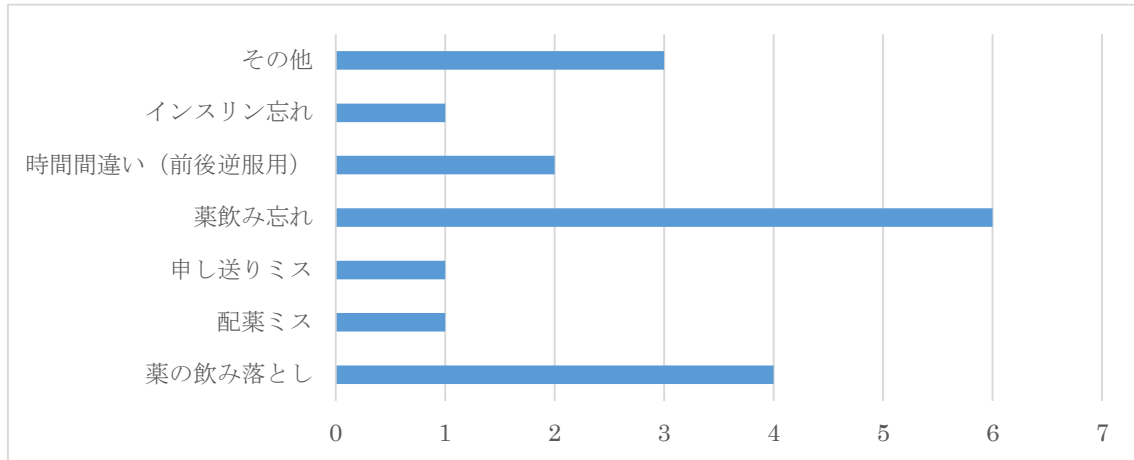
区分 時間	転倒	転落・ 滑落	誤嚥・ 窒息	溺水	火傷	異食・ 誤飲	暴力	紛失・ 破損	無断 外出	自傷	介護中の けが	その他	計
0-6	76	32	0	0	0	0	0	0	4	2	3	2	119
6-12	70	48	3	9	0	8	10	6	15	3	2	7	181
12-18	109	74	4	1	6	11	8	4	33	3	2	12	267
18-24	68	35	1	0	0	3	1	0	3	0	2	2	115
計	323	189	8	10	6	22	19	10	55	8	9	23	682

区分) 誤薬・誤配、感染症、褥瘡、原因不明のけがのヒヤリハットは 0 件

3. 薬事故件数

上半期	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
誤 薬 事 故	1 件	2 件	0 件	2 件	4 件	1 件
重大な誤薬事故	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
下半期	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
誤 薬 事 故	0 件	2 件	3 件	1 件	2 件	0 件
重大な誤薬事故	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件

＊誤薬事故の主な内容



VI ご要望・苦情に関して

各事案に関しましては、多職種と検討しその都度対策を申し合わせ、全体で周知しています。それぞれ頂いたお言葉を真摯に受け止め、再発防止に努めて参ります。

番号	受付日	苦情の概要	苦情改善の概要	第三者委員
1	2016年 4月4日	ショートから帰宅後、右足甲から親指の付け根にかけて内出血ができているが、ショート利用中にできたものではないか教えて欲しい。	入所時全身チェックは行ったが靴下を脱いでまで確認をしていなかったことを報告。今後の入所時には全身チェックが確実にできるよう対策を立てる事をお伝えした。	参 加 不参加
2	2016年 4月18日	①医療費請求書の詳細が記載されていない、本当に往診が来ているのか。 ②訪問歯科が連続2日間入っている。その必要性があったのか、このことは施設側も把握しているのか。	①坂病院から別紙の請求書を発行してもらうようにした。 ②2日連続で入ったのは歯科サイドの都合だったことを説明。再度ご要望を伺い、口腔ケアの間隔さえあけてもらえれば、今のままで良いと返答あり。できることできないことを分けてお伝えした。	参 加 不参加
3	2016年 5月29日	①入居順番が下がっていたのはなぜか？②入居を決める点数の根拠が知りたい③相談員と直接話せる時間帯を知りたい。	生活相談員が直接説明した訳ではないので、混乱させてしまったことを謝罪。直接相談員から連絡をして、①～③について説明を頂き納得頂いた。今後も相談員を窓口とするが、不在ですぐに連絡できない場合の対応を検討。	参 加 不参加

4	2016 年 6 月 6 日	①ユニットからくる体不調等の電話内容についてきちんとした説明が欲しい。②5 月の担当者会議で眼科受診の話をしたが受診予約日が6月末になるのはおかしい。③②についてケアマネも把握しておくべき。④会議に参加した看護師の態度が良くない。⑤上からの説明を求める。	①はユニットでリーダーを中心に対応を検討。②予約がなかなかとれない場合は別の病院も検討(結果2か月待つなら料金もかかるから行かなくて良いと)。③①も含め途中経過の報告の仕方等も検討。④医務係長から指導する旨伝えた。 ⑤介護課長、医務係長、施設ケアマネジャーで対応。	参 加 ☐ 不参加
5	2016 年 6 月 6 日	①ターミナルケアに移行してから半年が経過したが、担当者会議ではその話にならなかった。家族の想いを酌んで欲しい。②最新版のケアマネジャーの本を購入したので、コピーをリーダーに渡した際に嫌そうな対応をされた。感情を伏せて欲しい。	①ターミナルケアに移行した方の担当者会議では特にご家族の気持ちを伺う場を設けることにし、その後当人にもそのような対応を行っている。 ②マスクを着用していると表情が見えづらいこともあるため、大事な話を話す際はマスクを外し対応する。	参 加 ☐ 不参加
6	2016 年 9 月 19 日	4/27 デイサービス利用中に転倒、胸椎圧迫骨折し、入院加療しているが痛みの症状が改善せず入院継続。長期の入院で ADL 低下し介護度が1から4になった。在宅生活復帰は困難と判断し退院後は施設入居する運び。今回の事故に対し施設としての責任と補償について考え方を書面で回答して欲しい。	・普段の利用状況、事故時の状況を現場確認も含め細かく説明し、情報の誤差を最少にしたうえで話を進める。 ・ご家族の苦情の裏にある、苦情に発展した不満を聞き出す。 法人本部、弁護士に相談	参 加 ☐ 不参加
7	2017 年 1 月 13 日	寒い中、30 分も外で待っていた。送迎の時間を守ってほしい。	当日はご立腹だったご主人へ、その後直接会うことができたので、再度お気持ちを伺い謝罪と対策について説明を行う。 送迎表の見直しも行っている。	参 加 不参加
8	2017 年 2 月 8 日	ショート利用中の 1/30 に外傷発見、ご家族同伴にて病院受診したが異常は認められずそのまま2日間ショート利用。退所した翌日の 2/2 自宅で歩けなくなり、病院受診したところ左大腿部頸部骨折で入院となる。ショート利用中の記録を見たが、どこ	・転倒後の表情、移動の仕方、痛みの訴えや身体状況の確認等、具体的に分かる記録を持参し説明。その際も「転んだ」事実を確認した職員はいないことも説明するが疑問は持たれていた。 ・当施設で転倒事故があった際にどのように対応しているか説明した。	参 加 不参加

		にも「転んだ」という表現がされていない。本人は転んだら自分では絶対起きられない。いつどのように転倒し、その後どのような対応をとったのか教えて欲しい。また内容が分かる具体的な記録を掲示して欲しい。	・退院後の生活に不安を抱いているとい話を伺い、施設入居も含め継続的に相談していくことにした。	
--	--	---	--	--

*問い合わせ相談等、窓口や電話の初期対応により解決した案件を除く。

*半期に1回(9月、3月)に法人本部 苦情受付担当者を通じ、法人本部苦情解決責任者及び第三者苦情処理委員へ報告。

VI 年度内活動報告一覧

	施設	委員会
4月	辞令交付、サテライト史入居開始 全職会議	入居判定委員会(風・史)
5月	利府吹奏楽団演奏会、避難訓練 法人デイサービス事業所会議	行方不明者搜索訓練(事対) 第11回ふれあいまつり第1回実行委員会 入居判定委員会(史)
6月	ご家族向け事業報告会、消防署立入検査 県連総会2日間、第1回運営推進会議(史)	食中毒予防・口腔ケア勉強会(食事) 入居判定委員会(風・史)
7月	参議院選挙期日前投票、職員検診 共済会総会 普通救命講習(史)、職員面談(史)	第11回ふれあいまつり第2回実行委員会 入居判定委員会(風)、ボランティア勉強会(ボラ) 財政活動(社保)、町内会廃品回収(ボラ)、身体拘束廃止勉強会(身拘)、風ぐるま誌発行(広報)
8月	第11回風の音ふれあいまつり 原水禁世界大会ショート佐藤大参加 第2回運営推進会議(史)	第11回ふれあいまつり第3回・第4回実行委員会
9月	利府町敬老お祝い会 原水禁世界大会参加報告会 法人学運交	入居判定委員会(風・史) 感染症・褥瘡予防勉強会(感染) 町内会廃品回収(ボラ)

10 月	避難訓練（風・史）、医務室監査 全職会議、中間報告会、ベガ号 第 3 回運営推進会議（史） 利府町 LSA 事業見積提出	認知症勉強会（リーダー）、財政活動（社保） 捜索訓練（事対） ボランティア交流会（ボラ）
11 月	大槌町らふたあヒルズ見学 利府中学校キャリアシップ 2 名受入 福祉ウェーブ（風・史 12 名参加）	リスクマネジメント勉強会（事対） 入居判定委員会（風・史）
12 月	第 4 回運営推進会議（史）、建物 1 年点検（史） 職員面談、ユニットケア東北ブロックフォー ローアップ研修	居酒屋（食事） 風ぐるま発行（広報）
1 月	後期職員検診 介護サービス情報公表提出（史）	財政活動（社保）、入居判定委員会（史） ボランティア勉強会（ボラ）
2 月	第 5 回運営推進会議（史）	入居判定委員会（風）（史）、風ぐるま発行（広 報） ターミナル勉強会（安衛）、盛付勉強会（食事）
3 月	介護サービス情報公表提出（特養・デイ）、 県連医療介護安全委員会サーベイ、全職会議	
	地域	見学・ボランティア・その他
4 月	葉山保育園入園式、県老協総会 住民の会役員会、葉山地区総会、LSA 定 例会議、利府町 SOS ネットワーク説明会	坂病院新入職員 60 名程度、(株)レッツ文化村 12 名 ユニットケア東北ブロック打合せ（仙台） ボランティア来所数 109 名
5 月	住民の会役員会・総会 利府町地域包括支援センター打合せ	ボランティア来所数 133 名
6 月	町内会清掃活動、レストラン楓閉店 新レストラン打合せ、子ども 110 番の家 登録、県老協理事会、住民の会役員会	友の会 10 名（史）、白百合 3 名 ユニットリーダー研修座学（仙台）、リーダー研修 24 名 ボランティア来所数 134 名
7 月	LSA 会議、利府町介護保険運営推進協議 会、地区老協幹事会、県老協デイス サービス部会、住民の会役員会、茶話会	友の会（史）、清掃活動（ボラ） ボランティア対象認知症サポーター養成講座 ボランティア来所数 104 名
8 月	町内会夏祭り、地区老協総会 住民の会役員会	こーぷ福祉会 2 名（1 週間） ユニットリーダー研修座学（仙台）リーダー研修 27 名 ボランティア来所数 134 名
9 月	多賀城市介護保険運営推進協議会	坂病院友の会 12 名

	地区老施協幹事会事前会議、地区老施協 栄養士研修、住民の会役員会	ボランティア来所数 68 名
10 月	町内会清掃活動、LSA 会議、地区老施協 幹事会、あやめの里 GH 運営推進会議 (史)、住民の会役員会	婦人会 10 名 (史)、涌谷町社会福祉協議会 12 名 ユニットケア連絡会 (東京) ボランティア 99 名
11 月	地区老施協合同防災訓練、県老施協理事 会、利府町介護保険運営推進協議会、住 民の会役員会	個人 1 名、大阪から 5 名、清掃活動 (ボラ) 利府中学校キャリアシップ 2 名 ユニットリーダー研修座学 (仙台) ボランティア来所数 127 名
12 月	安全運転管理者講習 住民の会役員会	山形たかはた荘 7 名、リーダー研修 18 名 ボランティア来所数 72 名
1 月	多賀城市介護保険運営推進会議 住民の会役員会・新年会	ボランティア来所数 57 名
2 月	LSA 会議、地区老施協幹事会、利府町介 護保険運営推進会議、住民の会役員会	利府町入札申請 ボランティア来所数 59 名
3 月	葉山保育園卒園式、地区老施協幹事会・ 総会、県老施協理事会、利府町介護保険 運営推進会議、住民の会役員会	友の会 (史) 10 名、ユニットケア施設長会・フォ ーラム (横浜)、涌谷町社会福祉協議会ボラ講師 ボランティア来所数 85 名

*その他、委員会、各部署会議 1 ヶ月に 1 回以上開催

デイサービスセンターくりこまの里

I 事業規模

1. 各月ごとの利用者数と収入

1) デイサービスⅠ

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
営業日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
利用者実績数	549	542	563	567	569	526	583	565	575	556	554	642
利用者／日	21.1	20.8	21.7	21.8	21.1	20.2	22.4	21.7	22.1	23.2	23.1	23.8
利用率	70.4	69.5	72.2	72.7	70.2	67.4	74.7	72.4	73.7	77.2	76.9	79.3
収入（千円）	4,666	4,639	4,738	4,788	4,714	4,394	4,924	4,800	4,974	4,880	4,809	5,047
利用者実数	71	72	75	72	73	70	77	77	76	76	77	76

2) デイサービスⅡ

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
営業日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27
定員	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
利用者実績数	137	181	168	170	176	167	171	145	126	137	154	175
利用者／日	5.3	7.0	6.5	6.5	6.5	6.4	6.6	5.6	4.8	5.7	6.4	6.5
利用率	43.9	58.0	53.8	54.5	54.3	53.5	54.8	46.5	40.4	47.6	53.5	54.0
収入（千円）	1,827	2,093	2,239	2,261	2,342	2,275	2,261	1,931	1,605	1,862	1,989	2,018
利用者実数	17	18	19	20	20	20	23	18	17	18	19	19

3) 居宅介護事業所(支援含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入(千円)	521	562	555	522	499	473	542	512	512	513	480	491
利用者実数	44	47	47	45	43	40	42	42	44	45	40	41

2. 職員体制 2016年4月～2017年3月

	正規職員	契約職員	パート・嘱託・登録	合計	病休	産休	育休	退職	入職
施設長兼相談員	1			1				1	
生活相談員	2			2					
相談員兼看護師	1			1					
介護員	4	3	4	11				1	1
准看護師	1			1					
栄養士兼介護員	1			1				1	
調理員兼介護員			1	1				1	
介護支援専門員兼相談員	1			1					
介護支援専門員	1			1					
事務員	1			1					
計	13	3	5	21				4	1

II. 各事業所・部門別

1. デイサービスセンターくりこまの里 I

1) 利用者動向

① 年度ごとの比較(平均)

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
利用率(%)	42.1	62.1	72.7	83.2	76.2	84.6	83.7	80.9	78.5	73.6
1日当たりの利用者	8.4	12.4	13.4	16.6	18.7	21.2	23.3	24.3	23.6	21.9

② サービス利用開始・終了者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
サービス利用開始者数	1	1	3		2	4	5	3	1	1	2	3	26
サービス利用終了者数	1	1	2		1		1		1	2	1	4	14

③ サービス利用終了の理由

理由	死亡	施設入 所・入院	認知症 型移行	他のデ イに	転居	不調	ショー ト中心 に	その他	合計
人数	2	6		3			1	2	14

④ 要介護度別利用者数（年間）

	要支援 1		要支援 2		要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5	
利用人数	10	514	9	725	26	2643	19	1709	3	593	7	445	4	201
割合（％）	6.7	7.5	8.7	10.6	38.3	38.6	27.0	25.0	5.4	8.7	9.2	6.5	3.4	2.9

右は延べ人数 左は実人数

<方針>

- ・在宅生活の維持を意識し生活機能、運動機能が維持・向上できるケアを実践します。
- ・利用者様の自己選択、自己実現できるサービスを実践します。
- ・「こまの部屋」自然に集まる和みの空間を皆様で作り上げる事が出来るような支援を行います。
- ・「里のフロア」運動や活動を通して、心も体もポッカポカになれる時間を提供していきます。
- ・地域交流を通して、人と人との関わり合いが持てるような活動を作っていきます

<具体的取り組み>

○利用者様の身体状況や生活環境等の把握に努め、その方に合わせた在宅生活の維持・向上のできるケアを行います。

・会議の際、情報の共有をし、必要に応じてカンファレンスや議題に上げて、その方に合わせた対応の統一が出来るように話し合いを持ち、実施をする事が出来ました。しかし、要支援者や要介護者の把握や、その方の状態に合わせた対応を意識して行う事が出来ていませんでした。又、対応の変化があった際に、その都度ケースへ記入する必要がありましたが、記入が出来ていない部分もありました。

○「こま」昼食に味噌汁作りを行う事が習慣となるように活動予定に取り入れていきます。

・毎回の「味噌汁作り」は、こまの部屋の利用状況や職員の人員の変動があり、出来ませんでした。その為、味噌汁作りではなく「はっと汁作り」を予定に入れて開催をし、皆様からは好評で協力しながら作る事が出来ました。9月からは、食事提供が業者へと変わり、今まで行えていたお菓子作り等、少人数での対応が難しいとのお話があり、全体でのお菓子作りや豚汁作り等を計画し実施していました。

○「里」「こま」の部屋で、昼食や午後の活動時にお好きなお部屋を選んで過ごして頂け

るよう、各お部屋の担当職員が皆様へお声掛けを行い、食事や活動へのご意見やご感想等は、その日にお伺いをし、その後の「活動計画」を皆様とご一緒に作り上げ、実施をしていきます。

・「こまの部屋」が開いている時には、その都度お声掛けを行う事で、お好きな部屋で過ごして頂く事ができました。又、活動計画については、ご利用者様との会話の中からご意見等をお聞きし、活動記録へ記載し会議でその内容を職員同士で把握し、その後の活動内容に反映をすることが出来ていました。

○会議の際にケースカンファレンスを開催し、ケースカンファレンス開催の1週間後に居る職員で集まり、実際に行ってみた情報交換を行います。その後、カンファレンスを行った方のケース記録の場所にシートを挟み、記入する時に目に留まる事で意識をして書き、記録を残していく事で評価に繋げていきます。

・利用者様でも週に1度しか来ない方もおり、内容によっては直ぐに情報が集まらない事もあり、カンファレンス開催後1週間で集まり情報交換をすることは出来ておりませんでした。又、ケース記録は、まだ意識が足りず、実施してみても内容の記載が少ない状況でした。

○地域の中学生と交流を図り、芋煮会を開催します。又、ご家族様との交流では、自由参観を実施し、ご家族様の好きな時間にここでの雰囲気を感じ取って頂く機会を作ります。

・芋煮会の交流は、11月に福祉体験として来て頂いた際に実施する予定でしたが、食事提供の業者との兼ね合い等で実施できませんでした。又、自由参観は、毎月利用者様やご家族様に活動内容等をお便りでお知らせをしているので、そこに自由参観の案内を出してお知らせをしましたが、来て頂く事はできませんでした。

2. デイサービスセンターくりこまの里Ⅱ（認知症対応型・地域密着型）

① 年度毎

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
利用率（％）	12.5	27.5	37.9	51.9	63.9	69.6	63.8	58.4	51.0	51.3
1日あたりの利用者	1.5	3.3	4.6	6.2	7.7	8.3	7.1	7	6.1	6.0

② サービス利用開始 終了者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
サービス利用開始者数	1	0	2	0	1	1	2	0	0	1	1	0	9
サービス利用終了者数	0	0	0	0	0	0	1	3	0	1	0	0	5

③ 利用終了理由

理由	死亡	施設入所・入院	通常型デイ	不調	ショート中心に	その他	合計
人数	2	3	0	0	0	0	5

④ 要介護度別利用者数（年間）

	要支援 1		要支援 2		要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5	
利用人数					6	430	5	416	4	640	2	343	2	63
割合%					25.1	22.6	30.3	21.9	26.9	33.6	8.6	18.0	9.1	3.3

右は延べ人数 左は実人数

<方針>

- ・認知症の利用者様が安心して過ごせるケア・環境をつくって行きます。
- ・利用者様の情報収集・共有を行うことで統一したケアを実施します。

<具体的取り組み>

- ① ご利用者様の情報を整理・見直しを行いお一人おひとりと向き合い、個性に合わせた対応を検討していきます。また、日々の記録を見直し、記載方法・様式を検討していきます。
 - ・カンファレンスや生活シートを活用し個性に合わせた対応を検討することが出来ました。認知症状や普段とは違う様子が記載することが出来ておらず、記録を見直す事は出来ませんでした。
- ② フロア内の環境を見直し、認知症の方が落ち着いて過ごせる環境、楽しい時間を過ごせる環境を検討し実施していきます。
 - ・利用者様が落ち着いて過ごせるよう曜日毎にテーブル配置を検討し、実施することが出来ました。
 - 一日の予定（スケジュール表）を作成し生活リズムを整える事で落ち着いて過ごせる環境を作ることが出来ました。
- ③ 認知症についての学習会を6月・1月に行い、個々の利用者様に合わせたコミュニケーション、ケアに活かしていきます。
 - ・会議内で認知症に関する研修の伝達は行えたが年2回の学習会は実施出来ませんでした。
- ④ 利用者様が楽しんで行える活動を企画し、利用者様一人一人の興味や得意なことを引き出し、維持している機能を活用できるよう取り組みます。
 - ・個別作品や脳トレなど、利用者様一人一人の興味のある事や得意な事を引き出し維持している機能を活用できるよう取り組むことが出来ました。

相談員

<方針>

- ・ご家族様、ケアマネージャーの方々に身近な施設と感じていただけるよう、情報発信、連携を図っていきます。
- ・法令順守に努め、相談員業務を適正に遂行します。

<具体的取り組み>

- ① ケアマネージャーにお試し利用、新規初回利用、利用者の特変状況の報告をし、連携を図ります。
 - ・必要な情報はその都度報告し連携を図ることができた。今後も継続していきたい。
- ② ケアマネージャーへの連絡基準を明確にし周知する事で、正確で迅速な情報提供を行なっていきます。
 - ・連絡基準に沿って情報提供を行うことができている
- ③ ご家族様やケアマネージャー、地域の方々に気軽に足を運んで頂けるような企画を考え実施をしていきます。
 - ・実施することができなかった。
- ④ 利用者様一人ひとりのデイサービスでの様子を、より細かく記録できるようケース記録の充実を図り、モニタリングへ活かしていきます。その為、内部研修を開催し職員へ指導を行っていきます。
- ⑤ 連絡帳の充実を図るために利用者様一人一人の利用時の様子の把握、情報収集を行っていきます。
 - ・一日の様子、個々に合わせた身体状況を報告する事ができている。

介護職

<方針>

- ・利用者様が安心して過ごせる空間、元気になれる時間を提供します。
- ・お一人お一人に合わせた、あたたかい介護サービスができるよう努めます。
- ・お一人お一人に合わせた技術を身につけ、確認することで利用者様に安心して介護を受けていただけるように努めます。

<具体的取り組み>

- ① 活動内容を充実し、利用者様がご自分のご希望で選択できるようにします。
 - ・活動内容は計画を立てて選択できるように行ないました。こちらから声掛けをする事で利用者様自身で選択する事が出来ました。午前中はこまの部屋を開けない場合は、午後に活動する事ができました。
- ② 「くり・こま・里」の各部屋での活動を把握し、全ての利用者様の対応が行えるように、当日の担当職員を決めて支援していきます。
 - ・当日の活動内容を朝礼時に伝えミーティング版にも記入する事で把握する事が出来まし

た。それにより、活動がスムーズに行えました。

③ レクリエーションや脳トレ等の活動内容が把握しやすいように、各部屋のレク記録を活用し、皆様に楽しんで頂けるよう努めます。

・活動が終了したら担当職員は（里・こま）レク記録を書くようにしているが、くりの部屋は忘れてしまう事が多かった。今後は職員間で声掛けを行い、記入漏れをなくしていきます。

④ お風呂場でも季節感のある飾り付けや毎月の行事湯を企画して、雰囲気を楽しんで頂けるようにします。

・行事湯は毎回好評で利用者様に喜んで頂く事が出来ました。季節ごとの飾りつけは出来ませんでした。今後は季節感を出せるような飾り付けを行っていきます。

⑤ ミーティング版を出勤時に確認し、ケア変更があった場合はケース記録とミーティング版に記入する事で、利用者様の情報の把握や対応の統一を図り、より良いケアへ繋がっていきます。

・各自、出勤時に確認する事が出来ておりミーティング版に記入したものはケース記録に残すよう意識して出

来ていました。今後も継続し、意識していきます。

⑥ 月1回の介護職会議を実施し、会議の前に司会者は方針を読み上げ確認を行います。

・毎行なう事が出来ていました。今後も継続し行なっていきます。

医務部門

<方針>

・家庭と連携しデイサービスでの体調管理に繋がっていきます。

・心も体も元気になれるような運動を実践していきます。

・感染予防対策を実施していきます。

<具体的な取り組み>

①ご家庭での様子や医療情報を把握しデイサービスでの健康観察の役立てていきます。

②家族との連携を深め特変時に対応できるようにします。

③介護職と連携し丈夫な体づくりに努め楽しんで取り組めるようにします。

④手洗い、うがいを実施し（利用者、職員）感染防止に努めます。

<反省>

①デイサービスでの健康観察（体調管理）に役立つように連絡帳を通して、家庭との連携ができました。

②特変時には家族へ連絡し、速やかに対応するように努めました。

③介護職と連携し体操などを通じて健康づくりに努め、楽しみながら取り組む事ができました。

④デイサービス到着後の手洗い、うがいを行なう事で感染防止の対策に努めました。

公益部門

1 指定居宅介護支援事業所

1) 利用者動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
支援開始数	1	0	0	1	1	1	4	2	0	0	1	1
支援終了数	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	0	1

支援終了理由

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
死亡の為									2			1
入所							1	2		2		
他事業所利用												

<方針>

- ・介護保険の改正点を熟知し、法令順守に努めます。
- ・ご利用者様、家族に適切なサービスの提案、情報提供を行い在宅生活の支援を行います。

<具体的取り組みと反省>

① 研修への参加を通し、介護保険情報を周知していきます。

- ・参加可能な研修には出来る限り参加し、得た情報は事業所内での共有を行いました。

② 個別ニーズを支援できるよう、関係事業所との連携を強化します。

- ・ご本人、ご家族、関係事業所との連絡を取り情報共有を行いました。

また、必要に応じて医療情報を取得し医療との連携を図りました。今後、重度化して行く在宅高齢者を支援できるよう介護や医療に関わらず多方面からの情報を得られるように努めたいと思います。

③ ご利用者様、家族との信頼関係をつくり、在宅生活の支援者として適切な業務遂行を行います。

- ・先方に失礼をせず信頼関係を築けるよう、対応方法に配慮して業務に当たることが出来ました。今後は利用者様とそこそご家族の話しにより耳を傾け、話されている内容の裏にある心情なども汲み取れるよう意識して業務に当たりたいと思います。

V 苦情

苦情 1件

- ・職員 1件
- ・介護 0件
- ・その他 0件

苦情については申し入れについて対策を施し、すべて解決しております。

Ⅶ 消防防災計画

- ・避難訓練は計画通り開催しています。防火設備点検を、定期に実施しました。

介護老人福祉施設 田子のまち

2016 年度、田子のまちは様々な変化がありました。8 月の施設長交代、10 月からのショートステイ休止、などです。宮城県は介護人材不足が全国でも不名誉なワースト 1 位の状況になっており、法人として人材確保のための部署が必要との判断で、前施設長がその任に就くことになったための人事でした。しかし、依然として職員の退職、入れ替わりが多い一年となっしまい、結果として、10 月からはショートステイを休止とするなど、入居者様、利用者様、ご家族には多大なご心配、ご迷惑をおかけしてしまいました。退職する職員の理由は様々ですが、働き続けられる職場づくりを職員一人ひとりが主体的に取り組めるようにしていくのが課題だと考えています。

2015 年の介護保険制度と介護報酬の同時改定の影響、そして、ショートステイ事業の休止による影響で、厳しい経営が続いています。求人にかかる広報費が予算を超える状況でもあり、職員定着の不安定さが経営にも影響を及ぼしています。しかし、一方ではゴミ分別の徹底や水道光熱費の圧縮など、職員の地道な工夫と努力の積み重ねで経費削減に繋げており、今後も継続の取り組みとします。

ケアの面での特徴としては、施設での看取りが増えていることがあげられると思います。最期をどう迎えるのか、ご家族のご意向をよく伺いながら、嘱託医のご協力も頂き、「最期は田子のまちで」と希望された方についてはご意向に沿うようにしています。この経験は職員を大きく成長させていると感じています。

9 月、田子のまちは開所から 3 年を迎えました。たくさんの方々のご支援があつてこそと、あらためて感謝し、入居者様、利用者様、ご家族、地域の方々にますます愛される施設づくりを職員一丸となりすすめてまいります。

2016 年度延べ入居者数 89 名

【2016 年度稼働率・介護度】

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
97.9	96.6	95.8	94.3	92.8	91.5	91.8	91.5	93.9	91.2	87.7	88.1
3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.6	3.6	3.7

【要介護度別】

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
4 名	13 名	20 名	21 名	31 名

【保険者別】

仙台市	多賀城市	塩釜市	柴田町	利府町	涌谷町	富岡町	葛城市
75 名	4 名	4 名	1 名	2 名	1 名	1 名	1 名

【性別・平均年齢】

	人数	平均年齢(3 月末時)	最少年齢	最高年齢
男性	16 名	79.1 歳	67 歳	92 歳
女性	73 名	86.7 歳	58 歳	104 歳
計	89 名	85.1 歳		

【入退去状況】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入居	0 名	1 名	0 名	1 名	0 名	1 名	2 名	1 名	4 名	0 名	0 名	0 名
退去	1 名	0 名	1 名	2 名	0 名	1 名	4 名	2 名	3 名	2 名	1 名	0 名

施設介護支援専門員

毎月定例のサービス担当者会議を開催し、その中でケアプランについての内容や変更点等、職員で共有することができる仕組みを定着させることができました。サービス担当者会議の要点をユニット会議前までに作成し、ユニット会議時にユニット職員全員で確認するという流れも作りましたが、ユニット会議が定例で行えていないこと、開催時に連絡が滞ってしまったことなどから、その流れが確立できたとは言えない状況です。ユニット会議自体を毎月の定例として開催できるように調整していくことや、もし開催できない場合でも職員全員がケアプランの内容や変更点を確認していけるような仕組み作りが来年度の課題だと思います。また記録について、入居者様の生活の様子が分かるよう、情報を共有できるツールとして最大限に活かしていけるように呼びかけを行っていきたいです。また、アセスメントシートについても、その方の状態が分かりやすいものとして見直しが必要な時期にきていると思います。多職種の意見を取り入れながら、よりその方の状態が的確に把握できるアセスメントシートの作成が行えるよう取り組んでいきたいです。

2016 年度取り組み

①介護保険の更新申請について、仙台市 33 名、塩釜市 5 名、多賀城市 2 名、利府町 1 名、涌谷町 1 名、柴田町 1 名の計 42 名分を行い、そのうち仙台市と柴田町については委託を受けて認定調査を行いました。他、状態変化による区分変更申請は 2 名行っています。

②ケアプラン更新に合わせて毎月第 2 火曜日に定例としてサービス担当者会議を開催

し、多職種が集まりやすいように調整を行いました。

- ③定例のサービス担当者会議以外（認定更新時・入居時・本プラン移行時・退院時）では、入居者様やご家族様に会議への参加の呼びかけを行い、年間で 64 回開催、うち 38 回約 59%で入居者様やご家族様に参加していただくことができました。
- ④仙台市等主催等の介護支援専門員向け研修会に全体で 4 回参加し、自己研鑽に努めました。

ショートステイ

「利用者様の嗜好、趣味に合わせた取り組みを行いながら笑顔で過ごせるショートステイ！」を目標に取り組んできました。利用時の会話の中や連絡帳の記載、送迎時にご家族との会話の中から情報を集め、一人ひとりに合わせた個別対応を実施してきました。四季に合わせた行事や食事、設えを職員一緒に考え利用者様の一人ひとりの笑顔をたくさん見ることが出来ました。

しかし、職員の入れ替わりもあり体制が厳しくなるにつれ、送迎や入浴、居室準備など時間の追われる毎日で、業務が優先になり一人ひとりの想いに向き合えず、利用者様やご家族には本当に不安な思いをさせてしまいました。送迎の電話を忘れてしまった事や荷物を間違えて渡してしまった事があり、ご家族からご指摘いただきました。どんな時でも職員全員が同じ目標に向かって仕事ができるよう、その都度目標の確認が必要だと感じました。職員の入れ替わりの時や毎月の会議の際は、必ず目標を再確認して職員が同じ方向で仕事ができるようにしていきたいと思います。

田子のまちショートステイは職員不足から体制が厳しくなり昨年度の 3 月から撫子の閉鎖、10 月には花梨の閉鎖でショートステイが一時休止することになりました。開所してから 3 年の期間でしたが、また田子のまちのショートステイが再開できることを願っています。

2016 年度取り組み

- ①毎月ショーステイ会議を行いました。
- ②四季に合わせた行事、個別に合わせた外出を行いました。
- ③季節の花や野菜を庭に植え、利用者様と一緒に育てました。

4 月	畑作り
5 月	かわり湯(菖蒲、バラ、花湯)
6 月	
7 月	
8 月	花火、スイカ割り
9 月	敬老会

医務

今年度は誤薬ゼロの目標に取り組んできましたが、達成することは出来ませんでした。要因の一つとして、職員間での報告、連絡、相談が滞っていたことが上げられます。今後は職員間の関係性を構築し誤薬ゼロに向けて取り組んでいきます。

また、業務内容の見直しを行い、作業の効率化を図りました。これまでの書類を整理し、本当に必要なものを残し、新たな方法をみんなで話し合いで決めていき、残業を減らすことが出来ました。これからも、他職種と協力、連携しながら、専門職として、入居者様・ご家族の思いを理解し、体調管理に努めていきたいと思ひます。

2016 年度取り組み

- ①月 1 回医務会議を開催しました。
- ②業務分担、職場環境の改善を行いました。
- ③サービス担当者会議に参加しました。

食養

食事の委託業者の変更により、食形態や献立、提供方法に大きな変更がありました。変更後の食事内容の要望について、入居者様や食事委員から伺い、可能な範囲で献立に取り入れました。特に食事の彩りや行事食は、その都度業者と話し合いながら臨機応変に対応しました。しかし、今年度は嗜好調査を実施することが出来ず、入居者様お一人お一人のお気持ちを食事提供に反映させることは出来ませんでした。

コスト面については業者の変更で前半に大きなロスがみられた為、後半は厨房とユニット内でコスト意識を持ち食材のロスを減らしました。献立の充実や食形態の工夫、栄養面など課題があり、試行錯誤しながら食事の提供を行っています。

厨房業務については職員体制や作業工程の見直しを行いました。新しい業務や食材を取り入れることも多かったのですが、各々コミュニケーションを取り合って衛生的で円滑な仕分け作業を行うことが出来ました。また、食養会議の中で衛生管理の勉強会を開催しました。

栄養ケアマネジメントについては、提供量の見直しや療養食の停止がありましたが、栄養ケア計画通り滞りなく作成することが出来ました。サービス担当者会議に参加し、他職種と連携して栄養管理ができたことは良かったです。今後も入居者様やご家族の気持ちを大切に、田子のまちで過ごしてよかったと思っただけのような栄養ケアを目指していきたいです。

2016 年度取り組み

- ①月 1 回食養会議を開催しました。
- ②委託業者と献立の調節を図りながら食事提供を行いました。
- ③サービス担当者会議に参加しました。

4 月 委託業者変更	10 月
5 月 行事食（端午の節句）	11 月 仙台市施設調査
6 月	12 月 行事食（クリスマス）
7 月 行事食（七夕）	1 月 行事食（おせち料理・七草粥）
8 月	2 月 行事食（節分）
9 月 カメイと打合せ、行事食（敬老の日）	3 月 行事食（ひなまつり）

事務

今年度は、前年度よりも多く職員とのコミュニケーションが取れたとは思いますが、情報伝達はやや一方的になっていたように感じます。リーダー会議で経営報告を行えず、職員の声も経営に反映できるような場をもっと持てるような工夫が必要だと感じました。今後は収入と経費の状況も報告していきたいと思います。

また、年間の事務仕事の流れを口頭で確認しながら進めてきました。そして、ミスがあったときは、すぐに改善策を検討し、同じミスを繰り返さないよう取り組みました。今後は計画表を作成して漏れがないようチェックしながら進めていきたいと思います。

2016 年度取り組み

- ①経営報告の見直しを行なった。
- ②年間の仕事の流れを口頭で確認しながら進めた。
- ③署名への呼びかけ、周知、回収を行った。

職員研修

今年度も年間計画を立て、委員会や各部署へお知らせしました。前年度指摘を受けたリスクマネジメントに関する研修は予定月に行えませんでした。2 回行うことが出来ました。しかし、3 ヶ月に 1 回開催にした委員会があり、企画、準備にかかる時間を作れず、結果慌てて開催することになってしまい、内容を十分に検討出来なかった事が反省点です。

今年度は、後半になるにつれて参加者数が大幅に減ってしまいました。開催する委員会メンバーの入れ替わりが激しく、引き継ぎがスムーズに行えなかった事、研修準備時間の確保を保証で出来なかった事、日々の仕事に精一杯で勤務後の研修が負担になってしまった事が要因と考えます。

早めにアプローチして、学ぶ機会をもっと増やしていきたいと思います。そして、自ら学びたいと思えるような仕組みを作りたいと思います。

2016 年度取り組み

- ①年間計画に沿って、個別開催の働きかけを行いました。

②外部研修会の案内をグループセッションに掲載し、職員へお知らせしました。

③参加した職員が講師となって伝達研修（コミュニケーションスキル）を開催しました。

4月福祉用具の使い方（14名）	10月
5月脱水について（17名） ポジショニングについて（13名）	11月搜索マニュアル学習会（8名） 感染症対策について（8名） コミュニケーションについて（9名） 入浴効果・機械操作について（6名）
6月食中毒について（12名） 原水禁報告会（10名）	12月エアマットの使い方（5名） 認知症基礎知識・対応について（9名） 安全運転講習会（7名）
7月	1月排泄について（9名）
8月高齢者虐待・身体拘束について（18名）	2月事故検討学習会（10名）
9月	3月新人研修 避難訓練

※（ ）内は参加者数を表しています。

【2016年度事故件数】

転倒	転落 滑落	異食 誤嚥	誤薬 誤配	火傷	無断 外出	介護中 の外傷	その他 の外傷	紛失 破損	その他	計
51	46	1	38	3	8	17	151	12	19	346

乳銀杏保育園

2016 年度、乳銀杏保育園の保育所経営について次の取り組みが行われました。

1、事業規模

(1) 入所児童

年齢	4 月	5	6	7	8	9	1 0	1 1	1 2	1	2	3
0 歳	1 5	1 5	1 5	1 5	1 5	1 5	1 5	1 5	1 5	1 5	1 5	1 5
1 歳	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2
2 歳	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4
3 歳	2 5	2 5	2 5	2 5	2 5	2 5	2 5	2 5	2 5	2 5	2 5	2 5
4 歳	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2
5 歳	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4	2 4
合計	132	132	132	132	132	132	132	132	132	132	132	132

(2) 職員体制

	保育士	看護師	栄養士	調理員	園長	その他	計
正規職員	2 0		1		1		2 2
臨時職員	5						5
パート (6 H)	2			2		1	5
(5 H)	2						2
(4 H)	2	1		1		1	5
(3 H)	1					1	2
(2 H)	1						1
土曜・休日保育	2						2
計	3 5	1	1	3	1	3	4 4

・正規保育士 1 名が 5 月からの産休に引き続き育児休業を 3 月まで取得しました。臨時保育士が、育休明けで 6 月より復帰しました。

・仙台市公立岩切保育所の民営化を受け、2 0 1 7 年度開所にむけて 1 月より始まる引継ぎ保育のために、3 名の保育士の異動を見込み増員しましたが採用がむずかしく、配置基準は充足していますが、1 月よりフリー保育士 1 名不足になりました。

(3) 保育事業内容

- ① 事業計画通りの入所児童に基づき給付金と仙台市補助金、利用料（延長保育・一時保育・休日一時保育・3 歳以上児主食代）の収入で予算通り事業運営が行われました。
- ② 特別保育事業は乳児保育 1 5 名、障害児保育 4 名、延長保育、一時預かり保育、休日保育を実施いたしました。

（４）職員の役割分担

- ① 児童を担当する職員を定め、０～２歳児は各２クラス編成、３歳以上は各１クラス、年齢別９クラスで保育を展開しました。障害児保育担当２名、延長保育、一時保育、休日保育担当の職員を配置しました。
- ② 休日保育の体制は担当者と園長が連絡・確認を行い職員体制を決め、担当者が計画実施を行い、園長は点検や承認、担当者間の連絡を行い業務が行われました。
- ③ 一時保育は緊急の場合等も含め、日常の電話、申請受付、集金を園長、主任、事務員が行いました。利用可否は担当職員が３時から３０分の時間に保護者に連絡し、連絡漏れをなくし、受付業務の煩雑さを解消しました。
- ④ 食育については栄養士が中心になり通常の給食と懇談会の試食会、親子クッキングを保育士と連携して取り組みました。
- ⑤ 保健業務は看護師が午前の業務内の怪我の応急処置、薬の管理、感染症対策や掲示、健診準備、身長体重計測、保健だより、書類整備、０歳児補助など多義わたり役割を担い必要な業務が遂行できました。

（４）設備・環境

- ① ３歳児クラス児童のパイプ椅子、４・５歳児室のカーペットの新調、旧園舎１階の老朽化したエアコンを購入、ホールに取り付け児童の保育環境、午睡や食事が快適に行われるようにしました。給食室の冷凍冷蔵庫とガステーブルの取替え、児童の安全のために門扉を高くする工事を実施しました。
- ② 安全のため細かい補修や日除け、地震対策、清掃などは用務員が行いました。

２、保育内容について

（１）保育内容

- ① 保育者の人権意識を高め、子ども一人ひとりを尊重し仲間の中で育ち合う保育について、研修し、職員会議の中で深め保育実践を行ってきました。
- ② 行事は計画通り実施しました。日常の保育内容の蓄積として、どの子も達成感や楽しさを感じられる取り組みになりました。
- ③ 障害児保育は今年度、３歳児クラスに２名、４歳児クラスに２名の児童が在籍しました。一年の中で発達成長する姿がつけられました。しかし３歳児クラスは困難を抱えた児童が複数在籍しているために、母集団のクラス運営も含めて幼児パートの職員の連携が重要になるので、全体で専門の研究者を招いて研修を行いました。
- ④ 年齢別のクラスで保育内容の向上とチームとしての連携を迫及し、入職１～２年目の職員の成長を支えることができました。各パートで成果の強弱はありますが、次年度へ課題も含めて職員間の育ちあいをつくる方向性をつくることができました。

(2) 保健活動

①感染症について

突発性発疹	溶連菌感染症	感染性胃腸炎	手足口病	水痘	RS ウイルス
8名	16名	27名	5名	18名	11名
アデノウイルス	流行性耳下腺炎	インフルA	インフルB	ヒトメタ	頭じらみ
15名	1名	22名職員1	5名	10名	7名
ヘルパンギーナ	肺炎	気管支炎	マイコプラズマ	病原性大腸菌	出血性大腸菌
10名	4名	3名	1名	1名	0-86a

・感染症発生時には敏速にクラスの消毒や、掲示など必要な措置を実施しました。胃腸炎やインフルエンザは日時や月が開いて分散した感染でした。頭じらみは同じ児童が月を開けて感染しました。胃腸炎罹患は全体職員で実技研修を行い、おむつ交換の場所や交換時の職員の対策を管理部、担任と確認して行いました。

・毎日の薬の確認と与薬の確認を担当と看護師で行い飲み忘れや誤薬防止を行いました。

<年間与薬状況>

ひよこ 0歳 6名	あひる 0歳 9名	みか ん 1歳 11名	りん ご 1歳 11名	いち ご 2歳 12名	さく らん ぼ 2歳 12名	3歳 児 25名	4歳 児 22名	5歳 児 24名	一時 保育
156	401	81	293	136	123	450	38	116	89

・嘱託医による健康診断は年2回実施、歯科検診は年1回行われました。診断結果を個別の健康ノートで保護者に伝え、大事な点は健診当日に担任から報告しました。

⑤ 怪我、事故

・受診した怪我は7件でした。肘内症2、転倒による口唇裂傷2、噛みつき2、扉に挟み右母指爪下血腫1などでした。安全管理マニュアルの研修等、具体的な注意事項を全体職員会議で確認して進めていますが、さらにヒヤリハットを検討するなど、事故防止に取り組まなければなりません。

・他の保護者が玄関に入る瞬間に4歳男児が門扉から飛び出していく事件がありました。すぐに保護しましたが、建物構造の問題や児童の個別の特性に注意を払い、一層注意していく必要があります。保育門扉の改良工事を行い、保護者にも注意喚起を行いました。

（３）食育活動

楽しく食べる体験を深め「食を営む力」の基礎を培うことをねらいにとりくんできました。食育に関する取り組みや行事などは、写真をその日に掲示して保護者に知らせてきました。子どもが主体的に食に楽しく関わることを大事に選んで食べることや、自分でジャムを塗る、ハンバーガーをつくる、給食室のラーメン屋さんで、チケットと交換してなど、行事食と共に日常の給食で取り組みました。懇談会では試食会や親子クッキングを行い塩分摂取について考えてもらい、保護者との日常の関わりをつくることを行ってきました。野菜の皮むき活動（そら豆、筍、とうもろこし）やクッキング活動も行いました。

・年長児に朝食の描画を取り組み、朝食の厳しい実態が把握できました。家庭における朝食内容が前進するために、保育園として支援していく課題が明確になりました。

・離乳食、アレルギー食、配慮食の対応。アレルギー食の誤配・誤食を防ぐための日々の打ち合わせやチェック表を活用して行いました。

＜アレルギー除去食の提供＞

年齢	アレルギー除去食内容
0歳児 1名	卵
1歳児 1名	卵 タラ
3歳児 2名	卵 牛乳 ピーナッツ そば 完全除去 1名は卵のみ
一時保育利用 6名	卵 牛乳 小麦 ごま ピーナッツ 各自の診断に沿っておこなう

（４）安全管理

①安全管理マニュアルや防災マニュアルを職員会議で研修を行い、職員 1 人ひとりが意識的に備えて、対応できるようにしました。特に散歩は緊張感をもって取り組み、事故はありませんでした。

② 避難訓練を毎月行いました。事前に時間をしらせないで行うことを取り入れました。児童の避難靴を整備し、履く訓練も行いました。

③ 不審者対応訓練を 2 回行い職員間で避難対応を連携して行えるように備えました。

④救急救命講習を行い常勤保育士、パート保育士計 20 名受講しました。

3、保護者支援と連携

①支援を必要とするケースについて

全体職員会議で保護者の状況や保護者からの意見や要望、苦情を毎月討議して、保護者の状況を理解していくことを大事にしてきました。産後鬱から一時保育利用、入所し保護者の状態が改善し卒園を迎えられた家庭がありました。非課税世帯が15.％で非課税世帯が前年度より多くなっています。保育園では身近な相談者になれるように、職員間で連携してきました。発達に困難を抱えている子どもの子育てについても、面談などで悩み困難に共感し、子ども理解を共に深めていけるようにしてきました。一人親世帯に休日も含めて必要な保育時間を保証できたことも、支援として大きいことだと感じています。

②苦情について

苦情は3件ありました。1件は休日保育の電話受付について、2歳児クラスのおむつ替えが不十分であること、1件は2歳児クラスの子ども間のトラブルについての職員の対応についてでした。保護者と担任、園長と面談を通して関係が前進しました。苦情の内容についてはしっかり改善に取り組みました。

③懇談会について

以下の通り実施しました。クラスを超えて園長から「乳銀杏保育園で大切にしていること」というテーマで、各クラスの取り組みやエピソードを紹介して、保育観・子ども観を知らせていきました。参加者は少ないですが好評でした。

	4月～6月	7月～9月	1月～2月
0歳児	入園式後に顔合わせ	懇談会 試食会	懇談会
1歳児	懇談会・試食会・ビデオ		懇談会・ビデオ
2歳児	懇談会・ビデオ・試食会		懇談会・来年度に向け
3歳児	懇談会・ビデオ・親子クッキング		懇談会
4歳児	懇談会・ビデオ・親子クッキング		懇談会
5歳児	懇談会 一年の保育計画	懇談会・ビデオ・親子クッキング（6月）	懇談会
一時保育		12月親子クリスマス会	
全体	育児講座「保育園で大切にしていること」園長から 11月		

④ 保護者アンケートについて

行事や日常の保育内容や職員の対応や環境整備、懇談会について記入してもらいました。回収が106世帯中59世帯で満足、どちらかと言えば満足が97%以上である。記述での意見についても「どちらかという満足」に○をして書いている保護者も多く、おおむね信頼が得られていると思いますが、8項目で「どちらかという不満」に○をしている保護者がいます。そのことにしっかり改善できるように取り組みたいと思います。

⑤ 地域の子育て支援について

一時保育や「遊ぼう会」で支援を行いました。遊ぼう会は年10回開催（内容、わらべうた遊び、人形劇鑑賞、ほうねん座、育児相談等）で、大人延べ40人、子ども46人の参加でした。保育園に場所がないために、町内集会所で開催していますが、冬場の暖房器具が子どもにとって危険であるため、検討が必要です。一時保育は緊急の受け入れも行いました。

5、職員の研修と評価

- ①子どもの人権を大切にしていけるための学びや子どもが生き生きと活動するための研修、安全衛生の研修を行ってきました。安全、衛生マニュアル、救急救命蘇生、子どもの権利条約、保育情勢、運動あそび、絵本、劇あそびで大切にすることなど年間を通して園長、主任からの報告、文献学習と実践検討を行ってきました。また研究者の講話と実践検討で保育の振り返りを行いました。
- ② 年2回の保育・食育の総括会議を行い全常勤職員（担任のパート職員を含む）で報告と検討を行い、職員の自己評価と園としての自己評価を行いました。保育で達成したこと、不十分だったことの捉えを深め、次年度に活かせる自己評価ができました。
- ③パート保育士の会議を毎月行いました。職員会議の報告と短い論文の学習を行いました。
- ④給食担当職員の研修は栄養士が文献等の準備を行い、アレルギー食、離乳食、食中毒や衛生についての研修を行いました。
- ⑤今年度の重点目標は入職3年目までの職員の専門性の向上と職員が法人理念に団結して、職員間の連携と育ち合いをつくることでした。特に3年目の職員がクラス運営を主体的に進めていくことが作られています。

5、小学校との連携

- ①発達の気になる児童の保護者との面談を行い、教育委員会での相談会に参加してもらうことや、アールへの発達相談につながり、小学校入学に向けて児童の理解と配慮が進む方向をつくることができました。また、小学校の連絡会で引継ぎ学校から保育園に児童の観察にきてもらい、児童の理解と入学後の配慮について丁寧に引き継ぎをすることができました。
- ②「保育要録」を学校に送付するとともに、就学予定児の宮城野小学校と宮城野児童館の見学会を保育園から以来して実施しました。

6、補助金事業

（1）延長保育について

今年度の利用数も昨年同様に少なくなっています。0歳児クラスの児童は1名の利用がありましたが、職員の人数も十分に落ち着いて過ごすことができました。

延長保育時間	月平均利用数	補助金収入	利用料収入	合計収入
18時～19時	15.7人	2,442,000円	642,000円	3,084,000円

（2）一時保育

待機児のため継続利用をした児童は3名で、そのうち3歳児の高月齢児は保護者の希望もあり、1月からは4歳児クラス（児童数を考慮）で過ごし、児童にとりより良い保育環境を提供できました。また1月職場復帰の0歳児2名について、半日利用であったのでパート保育士を増員することができ、受け入れができました。1月から岩切保育所の引継ぎ保育の

ため、3名の保育士の転勤があり、常勤保育士採用がむずかしい状況のため、私的利用の受け入れを減少させたことで、昨年より利用数は減少しています。補助金については、休日一時利用実施で1,010,000円の加算と待機児で継続的利用した場合1日4,300円の補助が加算されることになりました。

平日延べ利用数	休日延べ利用数	補助金収入	利用料収入	合計収入
1,857人	81人	6,201,000円	3,005,700円	9,206,700円

(3) 休日保育

新制度の保育所、こども園、小規模園等に入所している児童は当園以外15箇所の園児が利用しています。仙台市に6箇所の実施園のため、販売業や休日出勤の職場が多くなっていることや、利用料が無料になったことで利用数が増加しています。運営費用は国の給付費の中に加算として組み込まれています。利用数は年間延べ611名でキャンセル数が多くなるのも特徴で、予約数は800名以上になっています。休日分の給付費加算は月約610,000円、一時扱い利用者は述べ76名で利用料収入は200,600円でした。

柳生もりの子保育園

1. 事業規模

(1) 入所児童

2016 年度は1歳児に身体発達面で経過の必要子どもに対応する未満児の障害児保育ため、1歳児の枠を広げ1歳児を3クラスに分けて作り、年間通して122名の園児を保育してきました。

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	107
1歳	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264
2歳	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
3歳	19	18	19	18	19	19	19	19	19	19	19	19	226
4歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
5歳	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300
合計	121	121	122	121	122	122	122	122	122	122	122	122	1461

(2) 職員体制

今年度は岩切保育所の引継ぎ保育を行うために保育士を多く配置した職員体制を計画していましたが、4月までに保育士を確保できず、岩切保育所の引継ぎ保育予定保育士もクラスに配置し、6時間のパート保育士4名もクラスの担任にすることでなんとか担任を配置し、4月をスタートさせることができました。11月までに引継ぎ保育士分の保育士募集と4月末から病休代替の保育士1名分も募集しながら保育を行ってきました。加えて朝のパート保育士が5月、6月、7月、10月に病休を取り、その保育士の補充ができないまま体制を調整して運営する厳しい状況でした。

9月～12月までは病休代替の臨時保育士を補充でき、12月までに引継ぎ保育士分を新たに1名採用しました。また、これまで6時間のパート保育士の2名を1月から～3月までは8時間の臨時保育士として契約することができ、1月からの岩切保育所の引継ぎ保育と柳生もりの子保育園の担任を新たに配置して1月～3月の保育を行いました。

年度初めの保育士確保できなかったことが影響し、年間通して人手不足のなかでしたが短時間のパート保育士を多く採用したことと、職員間の連携と協力で運営することができました。

	保育士	栄養士	調理師	調理員	看護師	園長	事務・用務	合計
正規職員	17	2	1			1		20
臨時職員	3							3

パート 6h	3							3
パート 5h	1			1			1	3
パート 4h	4				1			5
パート 3h	3			2			2	7
合計	31	2	1	3	1	1	3	42

上記の他に嘱託内科医師 1 名、歯科医師 1 名

2017 年 3 月現在

(3) 保育事業内容

2016 年度の公定価格による委託費と年間通して加算額の請求と補助金申請を行い、精算され、運営していきしました。

利用料収入は、保育標準時間の延長保育料と保育短時間の延長保育料が入りました。標準時間保育の申請者は 39 世帯で、標準時間保育の延長保育平均利用は 10 名でした。兄弟児の利用や終了時間ぎりぎりまで利用する家庭は少なく、ゆったりとした延長保育の状況でした。短時間保育の利用は、数か月短時間保育認定利用する世帯が 2 世帯ありましたが、すぐに標準認定に変更しました。利用にあたり、生活保護世帯と非課税世帯と多子減免分と東日本大震災被災者減免分を仙台市が補てんしました。

特別事業の障害児保育は、4～6 月まで 3 歳以上児 7 名で 6 月末に 1 名が退園し、7 月～3 月まで 6 名の保育を行い、未満児の障害児保育は 4 月～3 月まで 1 名の保育を行いました。乳児保育は 9 名の保育を行いました。

(4) 職員の業務分担と役割

* 8 クラスを担当保育士で運営しました。

園長は、主任保育士の助けを借り主任会議等で協議しながら、総括的指揮を執りました。主任 2 名体制で行い、日々の保育を管理運営してきました。10 月からは主任が岩切保育所の引継ぎ保育を行うため、柳生もりの子保育園の主任業務の職員体制配置と調整、未満児保育の運営管理、保育全体の管理担当、幼児組の管理運営等の分担しながら、引継ぎを行いました。保育内容全般について園長と主任保育士二人で確認し合いながら行いました。また職員間や保護者との関係が円滑になるよう園長と主任で協議し、配慮して日々の業務管理を主任保育士が行いました。

* 会計は、事務員と日々の経理業務を確認しながら保育所運営全般の事務を行いました。保育所運営全般の事務について、今年度も子ども・子育て新制度の制度による公定価格の委託費等の通達に基づいて手続きを行いました。時間を要し日々の手続きに追われてしまい反省しています。

* 食育活動は、栄養士が立案し給食職員と保育士と協議して行うよう努めました。新任の栄養士がこれまでの保育園給食の継承に努め、新たに季節に合ったメニューやアレルギー児を考慮した食育活動を計画、実行し、子どもたちとの関わりも作っていきしました。

また、基本となる日々の給食業務についても給食職員間で連携をとりながら給食を行いました。

＊看護師は、保育士と連携をとりながら、保健業務を行いました。ほけん便りも 4 号発行し、流行病気への傾向と対策や内服薬の依頼の仕方など保護者への啓蒙を行いました。

＊職員と用務員が管理部に集中し、改善個所を伝えて環境整備を行いました。また清掃や美化にも用務の力を借りて努めました。

（５）設備・環境・保育材料

＊2016 年度も各クラス遊具の点検を行い、年齢に合わせた保育教材の購入を行いました。クラス担任の希望を聞き吟味して購入しました。

＊開園 13 年目となり、今年度は経年劣化に伴う修繕を行いました。ホール照明を LED ライトに交換、戸車修理、床のワックス塗布を 2 回行いました。給食用スチームコンベクション故障し新しいコンベクションを購入しました。

＊園庭の植栽は、主任保育士と用務が中心に整備して行いました。

＊NPO 法人「きらきら発電・市民共同発電所」の太陽光発電に賛同し、屋根を貸しだし発電をはじめて 1 年半が経過しました。

＊保育園のホームページも主任が中心となって行事ごとに更新しました。

2. 保育内容

（１）保育内容

＊予定して行事をほぼ計画通りに行いました。行事を通して子ども同士の関わりを深め合い、温かい関係性をつくる保育をめざしました。

＊今年度、100 世帯中、生活保護世帯は 1 世帯、非課税世帯は 9 世帯でした。保育料滞納の家庭が 2 世帯あり、生活実態の厳しさがうかがえました。

＊保育士が一人一人の子どもの思いを受けとめ人との関わりの中で（大人とも友達とも）育ちあうことをめざし、各クラスの中堅保育士が 1～3 年目の保育士をサポートし保育を作っていました。

＊今年度の障害児保育は幼児の 6 名と未満児 1 名の障害児の保育を行いました。

未満児の障害児保育対象児は、職員が泣き入りひきつけ時の対応を学び落ち着いて対応できるようにりましたが、10 月初旬に別の発作症状（体を脱力や目が回わる、意識がボーとする状態になり呼びかけに答えずあきらかにいつもと違う状況）嘱託医に受診しました。その後も同じような症状が続き、1 日に 2・3 回起こることもあり、その都度保育士が観察保護して、自力での回復を待つ対応をしています。10 月に宮城県立こども病院に受診し経過観察との診断でした。また本児は体重身長増加も平均カウプ指数を下回る状況で小さいため、気をつけながら保育を行っています。

＊幼児組の障害保育では主任がリードし、ケース会議や幼児組職員会議で子どものとらえ

方やかかわりについて検討し保育を行いました。

＊年長児クラスの複数いる気になる子どもや個別の課題のある子どもの保育に悩む保育士に管理部や職員集団で検討して保育を行いました。

＊2017年1月に行った保護者アンケートは100世帯中58世帯を回収しました。おおむね行事に関して満足とやや満足の回答を頂きました。しかし、保護者に保育内容についてよく分からない思いや行事の取り組みへの目標等が伝わりにくいと思われる記述もあり、保育園として知らせる工夫がこれからも必要に感じました。保護者は子どもの様子を日々知りがっている思いがアンケートを読みさらによく分かりました。日々の保護者とのコミュニケーションが作られるなかで、トラブル時の対応や子育て観を一致していけるように忙しいなかでも日々のコミュニケーションを意識する心構えを持ちたいと改めて感じました。行事については雨天時の翌日開催の提案が1件ありました。また「行事時に感染症の流行した際は中止の決断も必要ではないか」と意見も3件ありました。保育園では行事の延期は難しいことを伝えていくことと中止についてはとても厳しいことですが、意見が多ければ今後検討が必要になってくるとおもいました。

＊苦情は3件あり、事務室に直接話していただきました。苦情の内容は職員の対応や態度についてでした。対応を反省し、検討して職員には全体職員会議で確認しました。

(2) 保健活動

＊今年度の通院が必要な事故は、昨年同様件数の通院があり、毎月のように起きてしまい、通院のない月は12月のみで一年間で24件となりました。事故が起きるたび職員も心労を重ね、対策をその都度取ってきましたが、なかなか事故を減らすことができず反省しています。特に幼児組には配慮の必要な子どもも複数いるなかで、日々生活が行われることや合わせて障害児保育も行うなか一对一の丁寧な関わりも必要でした。事故は、生活の切り替わりの時間や合同の朝・夕の時間が多くありました。水曜日が7回と最も多く、月曜5回、木曜日は5回、木曜5回、火曜日1回、土曜日1回となっています。幼児組の事故防止には、子どもの特徴の理解は欠かせないことで、代替や補助に入る職員も子ども理解について保育の中で具体的に話すことと、幼児組の遊びのルールを図式化し、職員全体で分かるよう示しました。また、全職の事故報告に過去の事故例を記載し、経験の浅い保育士もイメージを持ちやすいよう毎月報告しました。

＊病気欠席と与薬について

2016年度 病気の状況

・今年度のインフルエンザの流行は12月と3月にありました。インフルエンザBの述べ人数34名、インフルエンザAの延べ人数21名でした。クラス間で同時期に流行し兄弟間で流行しました。今年度は職員もインフルエンザに感染してしまいました。胃腸炎に関しては時期関係なく感染がありました。特に多かった時期は12月で胃腸炎感染者が述べ人数47名

ありました。保育園では保育室での嘔吐物に対する処置を徹底し、保護者にもお子さんの体力回復の面と感染予防のお休み協力をお願いして感染予防に努めました。また、しらみの発生が5月、12月、1月2月と多くあり、年長児で一人見つかりとクラスに5～6名うつる状況や兄弟間でもうつることがありました。1か月以上駆除できない場合もあり、掃除を徹底しました。

2016年度 年間与薬人数

	つぼみ	つくし	どんぐり	こりす	みつばち	おひさま	かわ	やま	合計
与薬数	259	131	586	196	480	490	507	297	2949

・昨年度と同等数の与薬数でしたが、一日に30人ほど与薬（のみ薬やぬり薬）することもあり、看護師が1時間かけて行っています。ここ数年肌の保湿ケアが必要なお子さんも多く一人一人のケアに時間がかかる状況があります。

3、職員の研修と評価

＊主任が計画し、講師は中堅保育士が行い、新入職員や臨時職員を中心にOJT研修を行いました。

＊パート保育士の会議を年2回行いました。日々の保育方針や子どもの姿の捉え方を職員全体での関わりが重要であり、園長が話をしました。同時に会議ではパート保育士の思いや悩みを知る機会であり、保育の現状を知るうえでも必要性を感じました。

＊2～3年目の保育士がリーダーに育つように、中堅保育士がクラスの運営を任せながら検討し方針をもって保育を進めてきました。今後も若手保育士自身が保育観を実感して保育できるようなサポートを大切にしていきたいと感じました。

＊年二回の保育総括会議を行い、クラスごとに掴んだことや大切にしたいことをまとめました。後期はクラス報告の後にグループ討議を行い、少人数のなかで経験年数も関係なく発言しやすい環境をつくり討議を行いました。

＊仙台市研修や宮城保育協会の研修の参加と自主学習として保間研や宮城合研に参加を呼び掛け研修を重ねました。

4、小学校や地域との連携

＊就学に向いて年長児の児童要録を児童の入学する小学校へ送付しました。また柳生小月校1年生の学習時間の見学をさせていただきました。近隣の柳生児童館と西中田児童館から指導員が見学にきました。小学校で行う幼保小連絡会に年長児担任が出席し引き継ぎしました。

＊小学校の町探検（2・3年生）での保育所の紹介や中学校の職場体験を受け入れました。

＊柳生町内の老人会を招待し9月に昔遊びを教えていただき年長クラスと交流しました。

＊地域の子育てを支援していく「あそぼう会」は園庭解放、わらべうた、プール解放、芋ほり、給食試食会など12回計画しました。今年度は計画した日の天候不良もあり、キャンセルとなって参加は数組でした。保育園前にポスターを張り、見学者に案内プリントを渡す程度の取り組みとなっていますが、今年の利用者がいない状況を分析し、地域に保育園の存在を知らせる窓口にもなるので宣伝方法を検討したいと思います。

5、補助金事業

延長保育について

＊年間通して平均利用が10名と人数は少ない状況で、10人を切ることもありました。0歳児の利用もあり少人数でゆったりと過ごせる延長保育となりました。

＊保育短時間利用の朝・夕の延長保育は、保護者も理解しにくいこともあり、保護者に個別の説明を行い、実態に合った標準認定変更申請を進めました。

古川ももの木保育園

1. 事業規模

2016年度は定員90名に対して、4月は101名でスタートしましたが、年度途中の入退園があり在籍も変動が激しい1年でした。また、広域入所児が2名入所しました。

(1) 入園状況（毎月1日の利用数）

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	12	12	12	11	12	12	12	12	12	12	12	12
1歳	20	19	19	19	20	20	20	19	19	19	19	19
2歳	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17
3歳	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17
4歳	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17	17
5歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
合計	101	100	100	99	100	98	98	98	97	97	97	97

(2) 職員体制（4月1日現在）

	園長	保育士	看護師	栄養士	調理員	事務・他	計
正規職員	1	15		1		1	18
臨時職員		2					2
パート(6H.)		1			1		2
パート(5H)						2(事務・用務)	2
パート(4H)		5					5
パート(3.5H)		1			2		3
パート(3H.)		1					1
パート(2.5H)		1			1		2
計	1	26	0	1	4	3	35

*主任保育士が4月2日より産休に入り代替え主任保育士（乳児部副主任）を配置しました。乳児部主任が不在となったので乳児部リーダーを配置し乳児部の連絡を密にしました。12月中旬に病休職員が復帰し無理がかからないよう配慮しながらの復帰をしました。職員の協力のもと大きく体調を崩す職員もなく運営できました。

(3). 保育事業内容

①事業としては大崎市より要請のあった延長保育の他障害児保育・地域交流保育（遊ぼう会）を行いました。

(4)．職員の業務分担と役割

①・主任が産休に入ったことで、それまでの副主任が主任代行となり、管理部が3人体制となりましたが、乳児部リーダーの役割を設けたことで、各クラスとの連携が今までどおり行うことができました。

・各クラス会議には必ず主任が参加し、学習や会議のすすめ方など、その月のクラス保育と一緒に考えることができました。職員間の連携では、なかなか保育士間でお互いの思いなどを話すことが少なくなっている姿もあり、文献を読んで学習をしたり、行事でペアを組んで意見を出しやすくする等配慮しましたが、難しいところです。

②・栄養士を中心に安心安全な給食に取り組みました。しかし、栽培活動については、栄養士任せになっていたところがあるため反省し、来年度は保育士が中心となって取り組みたいと思います。

③看護師は園長・主任と連携をとりながら感染症予防の徹底に努め、感染症の発生はありませんでした。

④経理・総務業務を事務員と管理部が協力して日常業務に支障のないように努めることができました。

⑤用務の職員経験が長くなり、用務員と管理部が協力して行うことができました。

(5)．設備・環境・保育材料について

①みつばちぐみのテラスの修繕や雨樋の塗装などを計画的に行い、園児の安全対策に努めました。

②園庭や散歩コース等の安全点検を随時行い必要に応じて改善しました。

2、保育内容

(1)．保育目標と主な行事

①子どもたちの最善の利益を守り健やかな育ちを保障するよう保育指針をもとに計画を立ててきましたが、制度がかわり短時間保育の家庭のお迎え時間と夕方の活動が重なる時もあり時間を早めたり保護者の方の協力を得ながら進めることもありこの制度の難しさを実感しました。

②6月の育児講座は中止とし、2月の父母懇談会と一緒に育児講座を行いました。昨年度は幼児部の保育参加を11月と予定していましたが、行事の活動とかぶる為9・10月に移動したことはよかったです。また、父母懇談会の日程も年間計画として事前に父母に知らせたことで、父母も予定に入れやすかったようです。

(2)．保育方針

①昨年度職員を対象とした手洗い講習を今年度は園児を対象に行い、子どもたちの中に「手洗いの仕方」が浸透し、また「たてわり」を通し小さいクラスの子にも伝えることができよい経験ができました。感染症対策として、感染症が発症したときには各クラス分離を行い、広がることなく済みました。

②保育園で大切にしている、子どもを主体とした保育を各年齢で取り組んでいましたが、

幼児部の一人担任のところで、運営がうまくいかず、「子ども自身が主体となる生活づくり」がなかなかできないクラスがありました。担任の思いを聞き、余裕があるときには補助の職員をつけ、一人の職員の負担にならないように、職員全体で協力してきました。主任が復帰したところで、副主任が補助として入り、一人ひとりに丁寧な関わりができたことで子どもの姿にも変化が現れスムーズにクラス運営が行えるようになりました。

③各年齢の発達をもとに活動や遊びを楽しみました。みつばち組（0，1歳児）では、手作りおもちゃを製作しさらに部屋の環境を整えたことで、子どもたちがより楽しめる遊びに繋がりました。とんぼ組（1歳児）では、担任が対になって遊ぶことでよりつもりの世界が広がりました。そらのこぐみ（5歳児）は、子どもたちと担任で話し合いながら、絵本の世界とともにざりがにの飼育とざりがにつりを一年間楽しみ、最後は自然にかえし、しめくくりました。

④日々のところで保育士が間に入りながら、保護者同士がつながれるように話をすることを大切にしてきました。ちょうちょ組では（0歳児）年度が終わる頃には、保護者同士で話をする姿よく見られました。

⑤障害児保育は具体的な方針をもとに取り組み、クラスの仲間とともに育ちあうことを大切にしてきました。また、保護者には日常の様子をビデオに撮って観てもらったり、園に来て観てもらうなど安心できるよう支援をしてきました。

（３）．安全管理

①早い段階でマニュアルの確認をし、安全管理について全職員の理解に努めました。

②災害対策として消防署や古川民主病院の協力のもと、毎月の避難訓練、年に1度の不審者対策年2回の総合避難訓練を計画通りに行うことができました。

③散歩先での不審者対策のため散歩計画書を提出し警報ブザーを持つなど注意に努めてきました。

３、保護者との連携・支援

①保護者が安心して保育園に子どもを預けることができるように日々の伝え合いを大切に信頼関係に努めました。また、各会議で情報交換を行いました。

②懇談会は親子クッキングとして位置つけることで（4，5歳児）全家庭が参加となり、またグループ毎でクッキングを行うことで保護者同士がつながるきっかけとなりました。

5歳児は前宮城野児童館館長菅井先生による「育児講座」も合わせて実施し就学に向けて大事にしたいことを確認できました。

③「保護者アンケート」は来年度に向けて検討し実施していきたいと思います。

４、職員の研修と評価

①法人統一の文献を学習し、子どもの人権について学びました。

乳児部会議では、場面記録を活用してきました。若い職員も自分の思いを出すことができ、その思いに寄り添って職員みんなで考えることができました。幼児部では個別の悩みはありましたが、場面記録に取り組むことができませんでした。来年度は乳児部同様活用していきたいと思います。

②各研修、会議に参加することができました。また中堅職員が中心となり、はじめてダンプ園長をお招きして荒馬の自主研修をくりの木保育園と合同で行いました。

③意識をして、描画の実践を行いました。しかし、学習係りでもよく話し合いをもたず各クラスの実践をまとめてしまったのは反省です。来年度も反省をいかしながらか引き続き取り組みます。

5. 小学校や地域との連携

①栽培活動でお世話になっている近所の方をおまねきして、5歳児は昔ながらの遊びを教えてください、一緒に楽しみました。

②幼保小連絡会に参加し、よりよい小学校生活がスタートできるように連携をとりました。小学校での様子を見学に行く予定を組んでいましたが、学校でインフルエンザが流行し見学に行けなかったのは残念でした。

③地域交流の場として月1回の遊ぼう会や夏祭りには近隣の方をお誘いして地域に根ざしていけるように努めました。

④職場体験・ボランティアの学生を積極的に受け入れました。

6.、今年度の重点事項

①定期的に園内社保委員会をひらき、法人での社保委員会で学んできたことを学習することによって全体での共通理解に努め、署名活動も積極的に取り組みました。

②「荒馬」は全職員で取り組み運動会で披露し保護者や子どもたちにも職員が真剣に取り組んでいる姿が伝わりとてもよかったと思います。引き続き来年度も取り組んでいきます。

③アクシデントのケース検討を行い全職員で確認し、同じことが起こらないように意識を高めていきました。職場会議の中で誰もが発言することはまだ難しいものがあり、予め聞きたい内容を何人かに伝えておく等の配慮をすることで発言を引き出せたのではないかと思います。

④自己評価・面談シートを活用し、一人ひとり丁寧に面談をしました。職員一人ひとりの課題や思いを知るいい機会になりました。

⑤若い職員が多い中では「何でも話し合える」という点では、荒馬でペアを組んだり、場面記録の中で話しあえる場を設けてきました。しかし、足りない場面もあったと思うので管理部がもっとアンテナを張って職員の思いに気づけるようにしていきたいです。

7. 保健活動から

・9月に夏の感染症のヘルパンギーナが乳児クラスを中心に流行しました。

その他の感染症のRSウイルスや感染性胃腸炎、手足口病などの感染者はいましたが、感染拡大することなく終息しています。

11月にノロウイルスが出ましたが、4名で終息。大流行が懸念されていたインフルエンザは、職員1名、園児は1名のみの感染で、流行することはありませんでした。

・年2回の内科健診、歯科検診は全員終了しています。

4歳、5歳児対象に手洗い指導、3歳児対象に歯みがき指導をおこない、子ども達の手洗い、歯みがきの習慣の意識の向上つながりました。

・重大な事故はありませんでした。

転倒により、こめかみを裂傷し5名が受診し4名が縫合、口唇、前歯をぶつけ、歯科受診したのが3名、かかとの打撲で整形受診が1名ありました。

《2016年度 投薬依頼数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	175	193	203	159	103	196	169	205	207	91	159	209	2069

《2016年度 アクシデント件数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	10	8	14	4	7	5	4	6	9	6	9	12	94

8. 給食室より

《配慮食》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	8	12	0	1	0	1	0	0	15	8	0	2	43

今年度は「乳製品のみ」の配慮が半数を占めている。他半数は軟便、下痢便のため食事全体の配慮食となっています。

《アレルギー除去食》

年齢	アレルギー除去食内容
0歳児(1名)	卵そのもの、卵メイン料理、マヨネーズ
1歳児(1名)	乳全般、卵全般、小麦全般、大豆
2歳児(2名)	乳全般、卵全般、小麦全般、えび、種実類
3歳児(2名)	ゴマ、キウイ、ピーナッツ
4歳児(1名)	乳、乳製品(菓子などの二次製品は可)、卵、卵製品(菓子などの二次製品は可)

《主な食育活動》

4 月	菜園活動計画	10 月	魚の解体ショー、クッキング バイキング給食
5 月	よもぎだんご作り	11 月	収穫祭、クッキング、地場産給食
6 月	野菜の皮むき、箸指導、食事マナー	12 月	もちつき会、バイキング給食
7 月	野菜収穫、クッキング	1 月	クッキング
8 月	お泊まりクッキング、食具指導	2 月	クッキング
9 月	青空給食、クッキング	3 月	3 歳児パン作り、4、5 歳児親子クッキング、バイキング給食、クッキング

今年度も異年齢交流給食を行いました。食べるだけでなく大きい子が小さい子を気づかいながらのり巻を作ったり、配膳のお手伝いをしながら楽しく取り組みました（2、3 歳児クラスから 5 歳児クラスまで）

いつもと違う環境で戸惑う姿が見られたものの良い経験になったように思います。

昨年に引き続き食事指導もスポット的に実施し、食育活動、食育指導の重要性が担任はもちろん園児・保護者の方々にも認識されてきました。幼児クラスの菜園活動では J A 古川さんからタネや苗の提供をいただき、お米納入者の方に指導をいただきながら実施することができました。また食材納入業者魚屋の協力で大きな鮭を子どもたちの目の前でさばく「魚の解体ショー」を今年も実施しました。その後調理員が子どもたちの前でさばいた魚を使い「ちゃんちゃん焼き」を作り食べました。11 月には地場産の食材を提供していただき「地場産給食」、12 月には地域の方のお手伝いでもちつき会、3 月には 4、5 歳児親子クッキングを行いました。4 歳児は自分たちで豆から育てた大豆で味噌作りを行いその味噌でクッキングを行いました。園内だけでなく地域と連携した食育活動を今後も大事にして行きたいと思います。

今年度も「より安心・安全な食事提供」を常日頃から心がけ地場産の食材をなるべく取り入れながら各業者へ食材の安全確認（放射能測定結果の取り寄せ・出荷産地確認・県、市ホームページの確認など）を定期的に行い安全な食材を納入してもらえるようにしました。継続し定期的に食材の安全確認を行い安心安全な給食を提供していきたいと思います。

《その他の活動として》

* 父母への働きかけとして：離乳食試食（父母懇談会にて）・簡単朝食レシピ配布・ホームページにて給食紹介、レシピの掲載など。

9. 補助金による事業

① 延長保育事業

延長保育登録数は、在園児の 5 割弱が登録しました。また、人数は若干減ったものの 7 時過ぎのお迎えもみられ、保護者の仕事の大変さが伺えます。また延長利用児のアレルギー

一対応も確認しあい誤食の予防に努めてきました。子育てに余裕が持てず仕事との両立に疲れている保護者が多く見受けられ、丁寧な保育支援が求められていることを痛感します。

〔2016年度の利用状況〕

申し込み利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6:01時点の平均数	19	17	15	15	12	14	16	14	13	17	16	19
6:31時点の平均数	12	9	10	9	6	7	8	7	8	9	9	11
4:01時点の平均数	4	2	3	3	4	5	5	4	3	3	4	4

② 地域交流事業

地域交流事業として「夏祭り」を行いました。また、世代間交流として「お店やさんごっこ」を1月に実施しました。あそぼう会は年5回行い、わらべ歌遊びを3回実施、地域の親子がゆったりと参加でき心とむ時間になっており、子育て中の親子の交流の場としても定着してきています。今後はもっと多くの家庭に参加してもらえるような企画・内容を考えて行きたいと思います。

遊ぼう会に参加した親子が、入園に結びついている実態があります。

下馬みどり保育園

2016 年度、下馬みどり保育園の保育園経営について次のように取り組みました。

1. 事業規模

①入園状況

毎月 1 日現在

年齢	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0	1 1	1 2	1 月	2 月	3 月
0	6	6	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
1	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 1	1 1	1 1
2	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1
3	1 3	1 3	1 3	1 3	1 3	1 3	1 3	1 3	1 3	1 3	1 3	1 3
4	1 2	1 2	1 2	1 2	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1
5	1 0	1 0	1 0	1 0	1 0	1 0	1 0	1 0	1 0	1 0	1 0	1 0
合 計	6 4	6 4	6 7	6 7	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 5	6 5	6 5

②職員体制（4 月 1 日現在）

	園長	保育士	保育 補助	栄養士	調理員	看護師	事 務 員	用 務 員	計
正規職員	1	9		1					1 1
臨時職員		3							3
パート 6 時間					1	1			2
5 時間		1						1	2
3:15 時 間		1	1						2
計	1	1 4	1	1	1	1		1	20

- ・ 2017 年 4 月開園岩切たんぽぽ保育所開園準備として、管理部体制は 1 月から変更がありました。園長が小関先生から佐々木に交代となり、主任は小原先生がクラス持ちながら、保育指導、出納職員としてやってきました。（行政との関係では小関先生が主任）
- ・ 事務職員を補充することができなかったので、主任保育士が出納職員とし日々の出入金管理を行いました。

③保育事業内容

計画どおり給付費（運営費）収入、補助金収入、利用料収入で行いました。

- ・ 延長保育は利用年間延べ 2,816 名、18:31 以降は 1,434 名で 18:31 以降の一日の利用平均は約 6 人でした。補助金収入は 2,145,900 円、利用料は 803,900 円でした。

- ・病児保育事業（病後児対応型）は、年間延べ利用数 53 名（うち他園児童 22 名利用）でした。

今年度から病児型対応型改善分（地域園へのほけんだより配布・保育園訪問事業）として加算され、補助金収入として 5,717,494 円、利用料収入は 106,000 円でした。

今年利用された家庭の中で、支援を必要としていた保護者がいたので、市役所、通園している保育所と連携をとり情報交換、保護者と看護師との電話相談してきたのも大きな特徴でした。

- ・地域活動事業補助金（遊ぼう会・なつまつり・ほうねん座公演）は、90,000 円、障害児保育事業補助金は 1 名（4 歳児）でしたので 1,164,000 円となりました。
- ・補助金と利用料の総額は、10,027,294 円となりました。

④ 職員の役割分担

- ・小関園長のもとで、主任保育士、副主任保育士の管理部体制を厚くし、全職前、総括会議前など管理部での討議を深めてきました。

事務職員の配置ができなかったことから、日々の出入金管理を主任保育士が行いました。

- ・病後児保育は看護師が担当し、年間で 53 名の利用、うち多賀城市内の他園児童の利用が 22 名でした。病後児保育の周知と、利用拡大を図るために、市内の認可保育園・小規模保育園など 12 か所を看護師・市役所担当者、園長・主任が訪問し説明、利用呼びかけへのパンフレット配布及び、感染症対策・薬のあげ方など情報交換を行いました。また 22 か所の保育所に毎月「ほけんだより」を送信するなど情報を提供してきました。こういった活動が認められ「特別加算・病後児対応型改善分事業」が適応され総額 5,717,494 円（昨年度比 +1,504,494 円）となりました。看護師の退勤以降 15 時以降は当保育園児担任またはフリーが保育を行い園外児童はフリーまたは主任が中心となって保育にあたってきました。

園児の健康管理については感染症予防の観点から手洗い指導を担当と連携して実施しました。

- ・食育については、調理員の協力を得て、業務を滞らせることなく遂行できました。保育士との連携は給食委員会を定期的開催し、子どもの状況を把握することに努めました。また屋上の畑で栽培した野菜を使つての食育にも取り組み、子どもたちの食への関心を高めることができました。

⑤ 設備・環境

- ・新年度すぐに、全クラスの玩具点検（誤飲を防ぐ・年齢に見合った玩具など）を行ってきました。

・

① 保育内容

- ・一人一人の子どもを大事にする立場で、個々の子どもの状況を把握し、日々の保育に生

かされるように各クラス保育目標のもとクラス会議の実施、未満児会議、以上児会議、リーダー会議を設定し、短時間でも学習に取り組みました。特に今年度は「長瀬美子氏」の文献を使って学んできました。複数担任同士のコミュニケーションが取れ、保育のねらいや内容が共有できるよう管理部もかわりながら取り組みました。

- ・行事については、各行事担当者を明確にし、職員全体で協力しながら作り上げていくや

方にし、職員一人一人が計画、実施、反省までを責任を持ちやり遂げる経験を積み重ね

とができるようにしました。年長児のお泊り保育は園外の活動も組み入れ、どの子も期待

を持ちいきいきと楽しく活動できました。

- ・障害児保育は、4歳児のダウン症児が、3歳児のクラスの中で（今年度は5人4歳児が入る構成となった。3歳児は12人）12人保育士体制を配置し子どもの特徴に応じた手厚い保育に取り組みました。

診断名のないお子さんで、児童発達支援センターに定期的に通園しているお子さんについ

ては、保護者、センターとも連携し、保育にあたってきました。

- ・1、2歳児クラスでの噛みつきが頻発したことで、保育園の対応を見直しました。保育園の

責任を明確にしたうえでそれぞれの保護者の理解も得られるような対応を心がけてき

ました。ヒヤリハット報告を書くことで保育を見直すことにもつながりました。

月	行事名
4	入園式 内科検診
5	歯科検診 遠足
6	交通安全教室、鶴ヶ谷保育所との交流保育、 保育参観・懇談会（2歳児、3歳児、4・5歳児クラス）
7	七夕会 クラス懇談会（0歳児、1歳児クラス） プール開き、なつまつり
8	5歳児お泊り保育
9	交通安全教室 祖父母との交流会
10	運動会、鶴ヶ谷保育所と交流保育 内科検診、歯科検診 さんまパーティー 芋ほり
11	子ども作品展 鶴ヶ谷保育所と交流保育（観劇） 勤労感謝訪問（地域の八百屋） 食育（鮭の解体）

1 2	小学校訪問
1	正月遊びの会 生活発表会
2	豆まき 交通安全教室 クラス懇談会
3	ひな祭り会 卒園式 鶴ヶ谷保育所との交流保育

＊避難訓練、誕生日会は毎月実施

②保健活動

- ・年2回の内科検診、歯科検診を実施しました。

健診結果は速やかに保護者に伝えました。

年間を通して看護師を中心として感染症予防に取り組みました。保育士と連携し、清潔な環境づくり、手洗い指導に取り組みました。

が、12月にはノロウイルスによる急激な感染拡大があり、保健所へ届け指導を受けました。(12名の罹患)クリスマス会や餅つきなどの行事を中止し、感染拡大防止と部屋の移動など必要な対策をとり収束しました。

- ・ヒヤリはっと件数 128件

噛みつき53件、ひっかき47件、打撲6件、転倒17件、衝突4件その他5件

- ・病院受診事故 8件

歯科受診1件、誤薬1件、肘内障3件、誤飲(おはじき)1件、転倒1件、耳介裂傷1件

③ 給食室・食育活動

栄養士と調理員二人体制で給食業務を行いました。アレルギー食、離乳食、配慮食の対応、食育活動(野菜の皮むきや、クッキング、鮭の解体、ラーメン屋さんなど)をクラス担任と協力して取り組みました。食育活動ではその日のうちに活動内容を写真とともに玄関ホールに掲示し保護者へお知らせしました。懇談会での試食の実施、0歳児クラス懇談会では離乳食について話してもらい、保護者との情報交換ができました。誤食はありませんでした。

④安全管理

- ・昨年度の園児の置き去り事故から再発予防のためマニュアルの見直しをしました。「園外保育における安全管理マニュアル」を新たに作成し、緊張感をもって散歩に取り組むよう職員会議で確認し、人数把握、行先など徹底できました。
- ・昨年度「プール遊び、水遊びにおける安全管理マニュアル」を作成し、プール遊びの前に衛生管理や、安全への配慮、子どもへの健康教育について確認しました。
- ・避難訓練は毎月実施し、竜巻を想定する、朝や延長時間帯での訓練を設定する、第二避難所(鎌倉公園)までの訓練も取り入れてきました。救急救命講習を行い職員16名が参加しました。
- ・4月に1歳児で薬の誤薬があり、経過観察のために入院となったことから、受け取る手順、

保管場所など再度確認しました。また看護師が朝に各クラスの与薬状況を毎日確認したのと保護者にも1回分のみ持参を徹底したことで、その後は誤薬はありませんでした。

- ・2月に2歳児が夕方、椅子から降り、耳介裂創で全身麻酔をかけての手術となり、経過観察のため1日入院となりました。あらためて遊びの環境の見直しをしました。
- ・今年度からリスクマネジメント委員会をたちあげて隔月で実施してきました。各クラス～1名と看護師で構成し、学習、ヒヤリハット報告・事故報告から危険回避のポイント、安全な保育について考えることができました。

3. 保護者支援と連携

- ・すべてのクラスで保護者との連携を大事にしてきました。
 - ・懇談会の実施・保育参加の実施で保育・子どもの様子を伝えることで、信頼関係を築いてきました。また一方で保育者への苦情から管理部も含めすぐに対応し、保護者の思をしっかりうけとめることを大事にしてきました。子どものお世話はきちんとすること(1歳児)、決めつけるような声掛け、保護者の状況を踏まえない話しかけは、保護者を追い詰めるような感覚をもたせることにつながると感じました。保護者対応については職員間の情報共有が必要なことと、窓口、担当を決める事を今後大切と思い職場会議などで確認しました。
 - ・園便り、ホームページの更新などで保育園の考え方、保育園の様子を伝える事ができました。ほとんどの保護者、見学者のおおくが目を通していていることを考えると、大事な広報活動として、充実させていく必要があります。
 - ・法人内で発行している「園便り」から学び今後、保護者も参画しているえんだよりに移行したいです。
 - ・ひとり親世帯が4世帯でした。1世帯は、母親の経済状況や精神的な不安定さが子どもの不安定さにつながるなどがみられ、担任を中心に子どもを丁寧にみて保育してきました。子どもの行動・つぶやきなどを伝えると同時に、いいところをたくさん伝え保護者との信頼関係をつくってきました。また父母の不仲が、子どもへの対応に影響していると思われるケースでは、面談や日常的な会話を通し家庭状況の把握と子どもへの関心を持ってもらうことなどを積み重ねてきました。
 - ・クラス懇談会は各クラス2回実施しました。どのクラスもビデオで子どもたちの様子を伝えることでわかりやすい、リラックスした雰囲気のもと、担任や保護者同士の交流が計れ信頼関係が築かれてきました。未満児クラスは、保育園での遊びを紹介し家庭での親子の触れ合いに役立ってもらうように、参加型の保育参観を夕方の時間に設定し、多くの保護者が参加してくれました。
- 1月には、元小学校の教員の方を講師に迎え、年長児保護者向けに育児講座を設定、全員の保護者の参加で実施できました。就学に向けて、親の不安を解消するためにも育児講座は必要だと思いました。
- ・保護者会役員会は定期的で開催され、保護者が自主的に運営できるように援助しました。

今年度は保護者会費の集金管理について集金箱を設置し、会計係が集金業務を責任もって遂行できました。ほうねん座公演料の一部を援助していただきました。

- ・今年度クリスマス会が感染症対策で当日中止となりましたが、苦情あげた保護者はいず1月に移行した「発表会」にすべての保護者がきてくれ、信頼関係が構築されていると感じました。

4. 職員の研修と評価

- ・公的な研修にはどの職員も参加できるようにしました。連続しての研修や、各人の課題に応じて派遣し、復命してもらうことで、学び合うことができました。ただ復命内容を理解するために、討議する時間の確保が今後の課題です。園内研修は0～5歳児の発達について学んできましたが、全職というより、部会での研修になってしまいました。
- ・発達障害についての自主研修には多くの職員が参加し、自閉症や、ダウン症についての理解を深めることができました。
- ・今年度は保育総括会議を2回実施しました。前期は場面記録の検討としました。具体的な対応について、子どもの気持ちを理解することにつながりました。後期はクラスのまとめとしました。

5. 小学校や地域との連携

- ・多賀城市認可保育所と私立小学校との連絡会を年4回実施しました。小学校教員との情報交換、小学校見学2カ所、小学校校長の講話などの内容でした。保育要録の送付とともに、学校ごとの幼保小連絡会に出席し学校での配慮につながりました。
- ・地域との連携では、夏祭りで町内会掲示板へポスター掲示、ご近所へのあいさつ回り、お話し会・なつまつり・ほうねん座公演のポスター掲示など、保育園への関心を持っていたけるようにしました。また散歩や行事の時には、地域の商店を利用するなど結びつき作り今後につないでいく計画です。地域の乳幼児向けのあそぼう会実施については今後の課題です。

6. その他

今年度は「ほうねん座」の伝統文化を鑑賞でき、「おはようシアター」には園児が一緒に参加するなど心豊かな経験ができました。またボランティアの方（小野元理事長、佐藤さん元看護師さんら）にお話をしてもらったことにより、子どもたちは楽しい時間を過ごすことができました。また保育士も学ばせてもらいました。

- ・保育署名に関しては保護者の方が30世帯協力してくれ他団体では大代保育園、松島医療生協、泉病院、長町病院、保険企画などの協力があったものの、951筆あつめました。職員側の問題として課題が残りました。今年度の目標に掲げていた社会保障運動が担当者任せにし、管理部としての援助ができませんでした。
- ・丹野園長先生を招き学習したことで、法人理念で掲げている具体的な保育内容が確認でき

よかったです。できたら次年度も学ぶ計画を立てたいです。

- 全職会議では、必ず一人一言を目標に進行してきました。がお互いを理解し合い、安心して自分をだせる職場、学び成長できる風土をつくりあげることが課題と思います。
- 28 年度監査で「くさの実保育園」の食事提供が保育所以外の目的で施設・職員を使用することができないので当保育園以外での提供を検討と文書指摘されました。

くさの実保育園

2016 年度、くさの実保育園の運営を以下のように取り組みました。

子どもの健やかな成長と保護者の就労支援を重点目標として、産休、育休明けの子どもを受け入れてきました。13 名程度の入園見込みがあり 1 0 9 名の入園となりました。

また夜勤や休日勤務、諸会議等に対応するため夜間保育、休日保育を実施してきました。

1. 利用児童数

①日中園児数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人	3	4	4	6	6	8	8	9	8	9	9	9

保育時間 8:00～18:00

②夜間保育のべ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人	50	53	60	64	89	91	92	89	82	81	75	107	933

保育時間 16:00～21:00(休日を除く)

③休日保育のべ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人	3	12	6	9	2	8	9	12	17	7	10	4	99

保育時間 8:00～18:00 年間 32 日 開園

④職員配置

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
保育士 8h	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2
保育士 6h	2	3	3	3	3	3	2	1	1	1	1	1

保 育 補 助 6h	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保 育 士 4 h								1	1	1	1	1
合計	4	5	5	5	5	6	5	5	5	5	5	5

2. 保育内容

① 日中保育

- ・子どもと保育士の愛着関係を大切にするよう関わってきました。
- ・遊び、睡眠、食事を基本に生活リズムを整えられるようにし、赤ちゃん体操、屋上で外気浴、散歩車での散歩に積極的に取り組みました。
- ・誕生日会、避難訓練は下馬みどり保育園と合同で実施しました。
- ・ソトス症候群といわれた子どもが入園し学習や配慮を行いました。
- ・手足口病がきっかけか、熱性けいれんを起こし後遺症との関連から退園となった子どもがいました。

② 夜間保育

- ・0歳～小学2年生の18名の子どもが利用しました。
- ・利用頻度は2か月に1回という子もいれば月に10回以上の利用の子どももありました。
- ・小学生には広い空間での遊びを大切にして下馬みどり保育園のホールを利用することもありました。
- ・

③ 休日保育

- ・毎回2～5名程度の利用でゆったり楽しく過ごせるように工夫しました。
- ・年齢差のある児童の利用の日は事故、怪我のないよう安全面に配慮し保育に取り組みました。
- ・学童児が多くなり、遊びの工夫を行ってきました。

3 健康

- ・内科・歯科検診は年に2回、下馬みどり保育園と同日に実施しました。
- ・アレルギー児への対応として診断書に基づきアレルギー食を提供しました。卵アレルギー除去食の子どもが数名いましたが、誤食もなく対応できました。
- ・受診するような怪我はありませんでした。

4 安全衛生環境整備

- ・避難訓練は下馬みどり保育園と合同で毎月実施しました。
- ・採光、換気、冷暖房、湿度の管理を適切に行い、乳児にとって快適な環境が保たれるようにしました。
- ・おもちゃの消毒、保育室の清掃に配慮しました。

5 認可外保育施設運営費補助金

多賀城市に居住する子どもに対して補助金がありました。

@4500 円×のべ 16 人=72,000 円（年間）

5 評価と課題

- ・多賀城市や、保育協議会主催の研修が認可外保育施設に対しても案内があり、どの職員も参加しました。
- ・夜間保育と休日保育の予約が急にキャンセルされることがあり、勤務予定職員の業務がなくなることがありました。
- ・年度当初から 8 月までは日中保育の子どもが少なかったため、下馬みどり保育園で実務研修ができました。
- ・職員の出産、退職（保育に責任持たせられない）と保育士の入れ替わりがありました。
- ・夜間・休日保育を利用する子どもたちが落ち着いて、遊べるような環境工夫や保護者との懇談、保育士の研修と課題が残りました。（担当保育士は一生懸命にやっているが、全職員での捉えを統一することが今後の課題です。）
- ・給食室の問題が課題です。

古川くりの木保育園

古川くりの木保育園の3年目は、管理部が一新し保育園の運営・管理に一層努めました。保護者や子どもが安心して過ごせることを第一に法人理念に立ち返り、職員とともに保育を確認しながら取り組んできました。一時保育や病後児保育事業なども3年目になり地域の方に幅広く認知され、問い合わせも増えてご利用してもらえた一年になりました。

1. 事業規模

入園状況（毎月1日の利用数）

2016年は定員75名に対して、大崎市の待機児童対策に応え0歳から5歳児の91名を受け入れ、年間通して変動なく推移しました。

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
1歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
2歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
3歳	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
4歳	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
5歳	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
合計	91	91	91	84	91	91	91	91	91	91	91	91

2) 職員体制

	園長	保育士	看護師	栄養士	調理員 (師)	事務・他	計
正規職員	1	12		1			14
臨時職員		3		1			4
パート(6H.)		3	1		1		5
パート(5H)		1			1	2(事務・用務)	4
パート(4H)		3			1		4
パート(3H)							
計	1	22	1	2	3	2	31

(上記の他に嘱託内科医1名、歯科医1名)

職員体制は、正規職員14名と臨時職員4名・パート職員13名の計31名でスタートし、途中正規栄養士1名・臨時保育士1名・給食パート1名の退職による交代がありました。年度途中よりパート保育士1名、パート調理員1名を補充しましたが、産休・育休者が2名おり、特に看護師の産休代替えは難しく補充できないまま保育体制、病後児保育体制に苦慮し

た年でした。また、早番・遅番のパート職員を募集しましたが見つからず、常勤職員で交替制勤務を行い乗り切った1年でした。

昨年に続き要望が多かった、一時保育は正規保育士1名・臨時保育士1名の2名を配置し、病後児保育には看護師6Hとパート保育士の1名を配置し対応しました。

3) 保育事業内容

事業としては大崎市より要請があった一時保育、病後児保育の他、産休明け保育・1時間延長保育・障害児保育・地域交流事業（遊ぼう会）を行いました。

4) 職員の業務分担と役割

- ・3年目の管理体制は、園長、主任、副主任が一新しこれまで以上に話し合いを重ね、討議しながら保育の運営、管理の充実に努めました。
- ・0歳児1クラス、1、2歳児混合1クラス、2歳児1クラス、3歳児1クラス、4、5歳児混合1クラスの5クラスを担当保育士14名で保育を進めました。
- ・一時保育、病後児保育は4名の担当職員と管理部・事務が協力して対応しました。
- ・事務は本部による日々の指導の下、経理・総務業務を事務員と管理部が協力して日常業務に支障のないよう努めることができました。
- ・児童の栄養管理・保健業務・環境整備等は前年に引き続き、保育士・栄養士・看護師・用務が管理部と連携をとりながら取り組みました。

5) 設備・環境・保育整備について

- ・3年目は、保育や行事に必要な備品（ホールの暗幕、2階カーテン）・保育材料（プール、テーブル、椅子）を検討しながら計画的に購入し、保育内容の充実に努めました。
- ・保育運営の上で、安全や不具合があるところ（2階テラスの転落防止柵、壁紙張替）の改善を必要に応じて行いました。
- ・園庭や園周辺の散歩コース等の安全点検を随時行い必要に応じて改善しました。

2、保育内容について

1) 保育内容

①職員も新たに加わり、法人理念をもとに保育の共通認識をはかることや日々の伝え合いを大切にしてきた1年間となりました。また、年2回の総括会議ではグループ討議を行い法人保育共通の参考文献を事前に読み、総括の場に生かせるようにしました。管理部としても前期・後期のテーマを決め、特に集団づくりにテーマを置き、少人数制、2人組、グループ活動など年齢に応じた保育の実践を通して考えあう場になりました。今後は、一人ひとりの子どもの思いに寄りそうという点では、全職員で確認し合い実践を重ね“場面記録”も活用しながら深めていきたいと思います。園内研修は、年度初めにしっかりしたものが立てられず反省が残りました。全職員とともに学び合う姿勢を大事に、計画的に進めていきたいと思います。

②障害児保育：今年度は3歳児クラスに1名、5歳児クラスに2名の児童が在籍しました。子どもや保護者との信頼関係を作りながら、友だちとの関わりや生活、子どもの思

いを大切に、保育を行って来ました。就学を控えた5歳児2名は、保護者や外部との連携を図ってきました。全職などでも、障害児のねらいや姿など丁寧に報告があり、職員間で共通の認識を持つことができました。

2) 保護者との関わり

日々の伝え合いを大切に、保護者との信頼関係づくりにつとめました。保護者への伝えを徹底していくために、引継ぎ板を作成しどの職員が入っても伝えられるように改善しました。年2回の父母懇談会では、保護者の悩みや子どもの成長を喜び合える場となり、保護者同士をつなぐ大切な場であると感じました。また、保育参加では子どもの様子を見てもらいながら、担任や保護者同士の交流にもつながりました。今年は初めて5歳児の保護者を対象に、個人面談を前期に行い、保護者の悩みや心配な事を園での様子を伝えながら就学に向けての1年を一緒に考えていくことが出来ました。

配慮が必要な子どもや支援が必要だと思われる家庭への面談も担任や管理部が入りながら行ってきました。日々、子育てに悩んでいる保護者にも丁寧に耳を傾け、支え合えるようにしていきたいと思っています。

3) 安全管理について

- ・年間を通して月1回の避難訓練と年1回の不審者訓練を実施しました。職員同士の役割・連携をしっかりと行っていきたいと思っています。また、不審者対策として、日中の時間帯の玄関の施錠をしていくなど検討していききたいと思っています。
- ・危険個所の改善については、2階テラスからの転落防止の為、柵を設置しました。今後も安全に保育園生活を送れるよう配慮したいと思っています。
- ・全職員を対象にして救急救命講習を年1回行いました。
- ・水害も年々増えており、江合川沿いに立地していることから水害を想定した避難訓練を今後行っていきたいと思っています。

4) 職員研修について

- ・全職員で学び合う園内研修計画を年度初めにしっかり立てられなく、例年より学び合う回数が減り反省が残りました。その他法人内の研修は、全職員、経験年数に応じ学び合うことができました。また、大崎市、県保協、現任保育士研修、全国合研、全国保問研、などへ多数参加し全国の保育情勢や保育実践を学ぶことができました。
- ・年2回の総括会議を行い、保育で大事にしてきたことを確認し深めることができました。

5) 小中学校や地域との連携

- ・古川北中学校、中新田高校の職場体験受け入れや大崎中央高校保育科との交流が初めてありました。将来、保育士になりたい学生の受け入れを積極的に行いながら地域との連携を深めていきたいと思っています。小学校との連携については、就学する児童を対象に小学校見学会に参加しました。今後も、小学校との交流を大事にしながら就学に向けて取

り組んでいきたいと思います。

- ・福沼地域の方との交流については、夏祭りにお誘いしました。地域の方との保育園の取り組みは今後模索しながら取り組みを考えていきたいと思います。

6) 保健活動について

《2016 年度 投薬依頼数》

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件数	123	138	168	210	158	190	239	197	228	22	145	127	1945

《2015 年度 アクシデント件数》

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件数	16	8	8	3	6	7	10	8	9	6	8	6	95

投薬は風邪による依頼が大半を占め、一年を通して依頼の件数が多く体調を崩しながらも登園している子どもが多いことが分かります。発熱後の翌日に座薬を使って登園するお子さんもいて、保護者への十分な周知と子どもの身体への負担になることも含めて伝えていく重要さを感じます。

保育中のアクシデントについては、咬傷、引っかきが大半を占めています。小さなアクシデントでも報告し職員全員で学び合い、改善していくような仕組みを今後も続けることで、より安全で安心な保育ができるようにしていきたいと思います。

また、感染予防の点から、予防接種歴の把握とともに未接種者への声掛けを引き続き行ってきました。集団の中での予防接種の意味、重要性を今後も保護者に伝え続けて行こうと思います。

7) 給食・食育活動について

離乳食やアレルギー食、障害を持つ児童一人一人に丁寧に対応する考え方で取り組んできました。離乳食では1歳を過ぎても完了食に移行できないケースもあり、家庭との連携を図りながら保護者への離乳食づくり、進め方も一緒に考えて行ってきました。障害児は家庭、医療機関、給食室と連携し、普通食へ移行することができ、食べる喜び、意欲につながりました。

- ・行事食は毎月1回のお誕生会と地場産給食、クリスマス会、豆まき会、もちつき会を行いました。行事の趣旨や子どもの食べている様子を家庭に伝える工夫が必要と感じました。食事の展示のほかにクッキングの写真など家庭への情報提供になる掲示物の作成をしました。

- ・保育と一緒に以下のような食育活動に取り組み年齢に応じた経験ができました。
果物に触れよう、果物を切るところを見てみよう（0歳児クラス）
ほうれん草ちぎり、おにぎり握り（1, 2歳児の各クラス）
野菜の型ぬき、こんにゃくちぎり（2歳児クラス）
ぎょうざづくり、包丁を使って野菜を切る（4, 5歳児クラス）
- ・食育活動の計画案・報告書を作成して“テーマとねらい”を園全体で共有しました。

3. 補助金による事業

①延長保育事業

《2016年度 利用状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
18:31分の1日平均数(標準時間児)	6	7	9	8	7	7	9	7	8	9	10	14	8.4

・在園児91名中短時間登録児7名、標準時間登録児30名で、18時31分時点の年間利用数は月平均7～9名となっています。年齢別では0～3歳児が半数をしめています。

②病後児保育事業

《2016年度 病後児利用数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	17	12	13	21	11	4	21	12	3	5	0	0	119

病後児保育の3年目は利用児数が延べ119名となり、月平均約15名の利用となりました（昨年比－59名）。年齢的には、3歳未満児の利用が大部分を占め、特徴としてダウン症などの基礎疾患を持つ子や骨折による長期的な利用が増加しました。施設別ではくりの木在園児が7割・他保育園と家庭・小学生が3割でした。今後は他園の保護者への周知を図り、子育て支援として必要とされる病後児保育を目指します。

③一時・特定保育事業

《2016年度 一時保育利用数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	57	61	90	103	87	135	154	146	164	157	164	164	1482

一時保育の3年目は利用児数が延べ1,482名で月平均数は123名でした（昨年比－434名）。大崎市の要綱が変更し、お仕事をしても週3日の利用に限定されました。毎日利用したくてもできない現状にあり、利用者減の要因になりました。しかし昨年同様登録・申請・予約等の問い合わせは増え、待機児童の増加に伴う0・1歳児の利用も増加しました。

④ 障害児保育事業

3歳児1名・5歳児2名の計3名を保育士の加配を行いながら支援を行いました。

⑤地域交流事業

〔2016 年度の実施状況〕

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	合計
あそぼう会		9	6		10	2	4	4	3		38
世代間・地域交流（夏祭り）				450							450

今年度は、遊ぼう会を 5 月から 12 月まで開催することができました。地域の親御さんや一時保育を利用している親御さんが参加してくれ、開催を楽しみにしているという声が聞かれました。昔ながらのわらべ歌遊び、園庭あそびに、夏はプールあそびなど家庭ではできない遊びを期待してきてくださる家庭も多く、要望に応えながら地域の方と子育てについての情報、悩み、喜びを共有できる場にして行きたいと思います。

工房歩歩

1. 施設運営状況

【施設利用者数推移表】

平成 29 年 3 月 31 日現在

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
男	1 2	1 2	1 2	1 2	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 2	1 2
女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	1 3	1 3	1 3	1 3	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 3	1 3

【就労支援事業支援費収入推移表】

(単位: 千円)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1, 213	1, 201	1, 578	1, 404	1, 370	1, 106	1, 364	1, 145	1, 210	1, 203	1, 338	1, 738	15, 875

2. 施設運営について

- (1) 職員配置状況：管理者兼サービス管理責任者 (1) 生活支援員 (1) 職業指導員 (1)
支援員補助 (1) 平成 28 年 7 月初旬 1 名退職

- (2) 利用者様状況：療育手帳 B (11 名)、精神保健手帳 (2 名)

- (3) 施設収入は材料費などの見直し等で赤字幅は改善されたが黒字にはならず、利用者さんが退所したことによって加算収入が減少した。

【平成 28 年度パン清掃業務売上推移表】

(単位: 千円)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
751	843	895	740	717	769	865	716	786	685	638	771	9, 181

【平成 27 年度月別工賃支給額】

(単位: 千円)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
265.	190	191	198	195	195	173	182	172	153	157	172	2, 249

3. 就労支援事業について

- (1) パンの売上は前年から伸ばすことが出来ず、原材料の見直しを行ったが質の低下が指摘された為、材料を元に戻しての製造となった。
- (2) パン製造に関わる設備の老朽化が進み、業務用冷蔵庫 1 台の入れ替えとホイロー (生地発酵機械) の修理を行い、オーブンやミキサー、冷凍庫等もメンテナンスや入れ替えが検討しなければいけない時期になってきている。
- (3) 清掃業務を受託することで、利用者様の作業の幅を広げることができている。一般就労や移行・A 型へのステップアップの訓練という観点でも清掃業務の位置づけは非常に重要なものとなっている。
- (4) 保育所等からの給食用パンの注文回数が増えた。また法人内社保財政活動でパンの販売協力も多くいただくことができた。
- (5) 宮城厚生協会の長町病院、古川民主病院からの注文回数が増えた。

4. 平成 28 年度行事について

4 月	交流会（カラオケ） 個別支援計画面談	利用者 13 名 職員 5 名 利用者 13 名 保護者 8 名
10 月	交流会（カラオケ）	利用者 12 名 職員 4 名
12 月	交流会（食事会） 個別支援計画面談	利用者 12 名 職員 3 名 利用者 12 名 職員 3 名

※平成 28 年度は利用者さんの減少、職員の退職があり、落ち着いた状況となったため行事が変更となりました。

5. 平成 28 年度総括

4 月スタート時点では利用者様は 13 名で始まり、7 月中旬で 1 名が退所、29 年 2 月では 1 名利用登録となり、3 月時点で 13 名の利用登録となったが、3 月中旬で 1 名が就労 A 型へステップアップすることとなった。年度途中で体調を崩して入院される方もおり、長期休みに入ることによって訓練等給付費が減ってしまう原因にもなった。

パン製造では利用者様の登録・退所があり、若干の変動はあったが登録人数の増加には繋がらなかった。利府支援学校からの職場体験実習受け入れも行っているが、それも結果にはまだ繋がってはいない。パン製造収益については、原材料の見直しやロスの削減で対応してきたが、パンの質の低下が問題となり大幅に材料を見直すことができなかった。機材関係の老朽化も深刻な状態になってきており、業務用冷蔵庫 1 台はリース契約で入れ替えを行い、他の冷凍庫やオーブン、ミキサー等も修理・メンテナンスで対応している部分で経費がかかってしまっている。業者からは入れ替えを薦められている。

清掃事業については、事業進行は順調に進んでいるが、作業を行っている利用者様の中には経験年数が数年経っている方もおられ、作業のマナー化が目立ってきている。製造事業からのステップアップ先の検討が必要となってきた。

パン製造と清掃事業において経験年数が数年経ち、作業技術やコミュニケーションスキルが成長してきている姿が見られるようになってきており、同じ環境下での刺激も不足気味に感じられる。新たな環境での作業を経験し、不慣れな場所で自分の実力を発揮できるよう新たな施設外就労先を計画し、個別支援計画に取り入れて利用者様の更なるステップアップを図っていき、実施時期に付いては利用者様と保護者様、相談支援事業所等の支援員と相談しながら検討していきたいと考えております。

28 年度も 27 年度に続いて人の入れ代わりが著しくあり、安定した事業を行えなかった。29 年度はパン事業の中止と、新事業の計画が進められているので、利用者様に落ちついた状況で作業に取り組んで頂き、行事等も積極的に行って利用者様の作業意欲の向上を図るとともに、新事業へスムーズに移行できるよう準備を行い、新規利用者様の獲得に向けて取り組んでいきます。

障がい児者サポートセンター てとて

1 各事業の基本方針

(1) 【児童部門】

住み慣れた地域で相談から療育までのワンストップでの支援、そして幼児期から少年期までのライフステージで個々の状況に応じた専門性のある支援が多機能に提供できるセンター機能の定着を図ります。

(2) 【就労部門】

地域で生活する障がいのある方々が「働くこと」を通して、一般就労や生産活動を行う中から働く事の楽しさを知り、また、生活していく力を養い、社会的自立に向け訓練から雇用までのステップアップを実現する事を目的に支援を図ります。

(3) 【相談部門】

身体・知的・精神など障がいのある方や、その家族が抱える様々な悩みや困りごとについて相談を受け、必要な福祉サービス計画を作成しながら、福祉の制度及び地域にある資源の情報を提供します。また、各機関と連絡調整を図りながら、利用者のニーズに応えるよう努めます。

2 児童発達支援事業所の取り組み

(1) 児童発達支援センター りんごのほっぺ

①重点目標・・・年間を通した利用率の安定を図る。

平成 28 年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
延定員数	200	190	220	200	180	200	200	200	190
延利用者数	132	113	166	135	137	169	173	180	172
稼働率	66.0%	59.5%	75.5%	67.5%	76.1%	84.5%	86.5%	90.0%	90.5%
平均利用人数	6.6	5.9	7.5	6.8	7.6	8.5	8.7	9.0	9.1
	1月	2月	3月	合計					
延定員数	180	200	220	2,380					
延利用者数	168	175	193	1,913					
稼働率	93.3%	87.5%	87.7%	80.4%					
平均利用人数	9.3	8.8	8.8	8.0					

4月から5月にかけて保育所及び幼稚園へ移行された方が2名おり、稼働率が下がりましたが、6月以降には新規利用者を段階的に増やすことができました。途中、入院されて長期休みになった利用者様がいましたが、9月以降は稼働率80%台を維持することができるようになっていきます。年間を通して稼働率80%と目標を達成することができています。

②行事、家族との連携・交流等

・季節毎に年間の行事を定め、季節行事を下記の日程で実施しました。

実施月	内 容	実施月	内 容
5 月	小遠足①	1 0 月	遠足
6 月	保育参観①	1 2 月	保育参観②・クリスマス会
7 月	小遠足②	2 月	豆まき
9 月		3 月	後期健康診断
		3 月	修了式・保育参観③

※夏季期間…水遊び 冬季期間…雪遊び

(2) 放課後等ディサービス てくてく

①重点目標：年間稼働率の向上

平成 28 年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
延定員数	440	420	480	440	420	440	440	440	420
延利用者数	154	196	225	223	205	239	222	248	244
稼働率	35.0%	46.7%	46.9%	50.7%	48.8%	54.3%	50.5%	56.4%	58.1%
平均利用人数	7	9.3	9.4	10.1	9.8	10.9	10.1	11.3	11.6
	1月	2月	3月	合計					
延定員数	400	440	480	5,260					
延利用者数	225	260	258	2,699					
稼働率	56.3%	59.1%	53.8%	51.3%					
平均利用人数	11.3	11.8	10.8	10.3					

4 月当初の稼働は 35%と低いものとなってしまいましたが、古川支援学校や圏域相談支援事業所、各小学校等への訪問活動を積極的に行ないながら新規利用者の獲得に尽力しました。その効果が徐々に始まり、5 月以降の稼働は 50%近い数値を出すことができるようになっていきます。体調不良などでのキャンセルが多く、8 月までに 50%稼働の壁を乗り越えることが難しい時期がありましたが、9 月以降にも新規利用者を獲得することで 9 月以降は稼働率 50%台をキープすることができるようになっております。

年間稼働 65～70%を目標としておりましたが、今年度中の平均稼働率が 51.3%と目標未達となってしまいましたが、2 月から 3 月にかけて新規利用の申し込みが 13 件あり、そのうち次年度利用に向けた契約を 12 件締結しております。次年度は 80～90%稼働を見込むことが可能な状況となっております。今年度未達だった目標を次年度は達成することができるよう職員一丸となって邁進していきます。

②行事、家族との連携・交流等

・季節毎に年間の行事を定め、季節行事の経験、小集団での社会体験の場を提供した。

実施月	内 容	実施月	内 容
4 月	お花見	1 1 月	小遠足
5 月		1 2 月	クリスマス会
6 月		1 月	書初め
7 月	社会見学①	2 月	豆まき
8 月	社会見学②	3 月	ひな祭り

※7 月～8 月学校夏休み ※12 月下旬～1 月上旬学校冬休み

※3 月下旬～4 月上旬学校春休み

(3) 保育所等訪問支援 てとて

重点目標・・・事業内容の周知

平成 27 年度における保育所等訪問支援の実績はありません。

保育所等訪問支援については、今年度 3 月末に当事業所における児童発達支援センターを修了して、一般幼稚園及び保育園に移られた方を対象に家族及び幼稚園、保育園へ保育所等訪問支援事業に関する提案を相談支援事業所と連携しながら進めていきます。

(4) 相談支援事業所てとて

重点目標・・・①障がい児者サポートセンターてとて各事業所への新規利用者紹介

②てとて全事業所の稼働率の向上

平成 28 年度実績

	相談契約件数	モニタリング件数
障がい児相談支援	48 件（うち新規 14 件）	42 件
障がい者相談支援	26 件（うち新規 3 件）	12 件

開所から 3 年が経過し、障がい児の相談件数が増加している傾向にあります。年度末には当事業所放課後等デイサービスの利用へ直接結びつく契約が 12 件ありました。現在、相談支援専門員の配置 1 名で事業を実施してきておりますが、障がい児者ともに契約件数が増えてきています。1 月には契約職員として相談支援専門員の求人をハローワークに出していましたが応募がない状況となっています。放課後等デイサービスの新規利用者を事業所と連携して獲得するという目標は達成することはできました。次年度課題として、障がい児相談支援と障がい者相談支援の担当を分担して業務を遂行することができる体制づくりを進めていきます。

3 就労支援事業所の取り組み

(1) 【就労移行支援事業】

重点目標・・・就労支援プログラムの再構築、企業開拓への取り組み

平成 28 年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
延定員数	126	114	132	120	132	120	120	126	114
延利用者数	97	57	22	19	39	36	18	21	19
稼働率	77.0%	50.0%	16.7%	15.8%	29.5%	30.0%	15.0%	16.7%	16.7%
平均利用人数	4.6	3	1.0	1.0	1.8	1.8	0.9	1.0	1.0
	1月	2月	3月	合計					
延定員数	114	120	132	1,470					
延利用者数	19	18	21	386					
稼働率	16.7%	15.0%	15.9%	26.3%					
平均利用人数	1.0	0.9	1.0	1.6					

4 月から 5 月にかけて新規利用者 3 名の暫定支給期間があり、在籍数は 4 名でした。2 ヶ月後には、3 名の方が当事業所内の就労継続 B 型へ移行したため在籍数は 1 名となっています。この間、相談支援事業所や各関係機関へ新規利用者獲得の働きかけを実施しましたが、新規利用者の獲得には至りませんでした。年度末に「就労移行支援事業を休止する」ことについて議論を重ねた結果、平成 29 年 4 月から就労移行支援事業を休止することとなっております。3 月中に宮城県障害福祉課に書類を提出しております。就労移行支援に在籍されていた利用者様については、次年度 4 月当事業所内の就労継続支援 A 型に移行していただいています。

(2) 【就労継続支援 A 型事業】

重点目標・・・年間を通した利用率の安定

平成 28 年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
延定員数	210	190	220	200	220	200	210	210	200
延利用者数	58	73	97	74	94	83	84	97	93
稼働率	27.6%	38.4%	44.1%	37.0%	42.7%	41.5%	40.0%	46.2%	46.5%
平均利用人数	2.8	3.8	4.4	3.7	4.3	4.2	4.0	4.6	4.7
	1月	2月	3月	合計					
延定員数	190	200	220	2,470					
延利用者数	72	75	81	981					
稼働率	37.9%	37.5%	36.8%	39.7%					
平均利用人数	3.8	3.8	3.7	4.0					

昨年度は上半期まで就労継続支援 A 型を利用される方はいませんでした。今年度は 3 名の方と契約を結んでスタートしております。5 月には新たに 1 名の方と雇用契約を結び

4名、6月に1名の新規契約、合計5名在籍となっています。5名中4名の方が精神疾患の利用者様、1名が聴覚障がいのかたという構成になっています。就労継続支援A型については、稼働を上げることはもちろんですが、最低賃金の確保も同時に実施していく必要があります。今年度の就労支援事業収入の状況を見ながらの契約ということから、今年度については5名の利用者の方たちとの契約を締結しない方向で動いておりました。1月に1名の方が家庭の事情で退所され、在宅となっています。年度末での在籍数は4名という形となっております。

(3)【就労継続支援B型事業】

①重点目標・・・年間を通した利用率の安定

平成27年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
延定員数	294	266	308	280	308	280	280	294	266
延利用者数	170	170	244	202	212	239	223	228	209
稼働率	57.8%	63.9%	79.2%	72.1%	68.8%	85.4%	79.6%	77.6%	78.6%
平均利用人数	8.1	8.9	11.1	10.1	9.6	12.0	11.2	10.9	11.0
	1月	2月	3月	合計					
延定員数	266	280	308	3,430					
延利用者数	208	225	221	2,551					
稼働率	78.2%	80.4%	71.8%	74.4%					
平均利用人数	10.9	11.3	8.0	10.4					

就労継続支援B型については、年間を通して安定した稼働を維持することができました。利用される方が作業の選択肢を持つことができるよう、新たな取り組みとして仙台卸売市場でのマドコン清掃及び仕分作業、ヤマトメール便、カメイ（株）様からの箱折作業等の受託業務を実施しております。弁当事業以外の作業を取り入れることで利用者様の選択肢の幅を広げることができた結果、年間74%の稼働を維持することができています。稼働率を80%台にするという目標には未達となっているので、次年度の課題として、収益性の高い受託業務を開拓しながら、新規利用者を獲得して稼働率を80%台にするよう努力していきます。

②行事等

季節毎に年間の行事を定め、社会体験の機会となるよう支援しました。

実施月	内 容	実施月	内 容
4月	お花見（荒雄公園）	12月	クリスマス会
8月	夏祭り（花火大会）		
10月	芋煮会（古代の里）		

4 情報公開、個人情報保護の取扱い

- (1) 会報「てとて」の発行・・・年3回(6月、10、2月)発行しています。
- (2) 個人情報保護規定に基づく個人情報の適正な維持・管理を実施しています。

5 苦情及び相談への対応

- (1) 苦情解決責任者、苦情受付担当者の配置・・・苦情件数2件
- (2) 受付制度及びその内容について、利用者及びその家族等のへ周知徹底
- (3) 相談受付後は状況確認や改善等の対策を実施し、相談者へ速やかに対応していく。

6 人材育成及び研修計画

- (1) 内部研修・・・法人内研修への参加(1年目、2年目、3～4年目、5～7年目の各研修)
- (2) 外部研修・・・児童発達支援管理責任者講習参加

7 防災計画

- (1) 避難誘導訓練の実施・・・年3回(7、9、11月)
- (2) 通報訓練の実施・・・年2回(8、12月)
- (3) 防災器具、設備の自主点検の実施

8 職員の健康対策

- (1) 職員の定期検診の実施・・・年1回(7月古川民主病院にて実施)
- (2) インフルエンザ予防接種・・・年1回(11月古川民主病院にて実施)

仙 台 市 宮 城 野 児 童 館

・ 2016年度 児童クラブ登録児童数（人）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
12 5	13 1	13 4	13 2	13 4	12 6	12 7	12 3	12 5	12 3	12 3	12 1

・ 同 児童館利用者数（人）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
乳幼児・児童	2,464	2,332	2,892	2,762	2,129	2,292	2,540	2,228	2,275	2,068	2,447	2,618	29,047
中高生・一般	310	234	264	256	207	307	374	243	307	257	285	267	3,311
小 計	2,774	2,566	3,156	3,018	2,336	2,599	2,914	2,471	2,582	2,325	2,732	2,885	32,358

1、子どもの成長発達を促し、可能性を引き出す放課後健全育成事業（効果後児童クラブ）

子どもの個性を生かし、「自分の責任で、自由に遊ぶ」子どもたちを育てるために児童クラブにおいて次のような活動を推進しました。

（１）手指や道具を使い、作って遊ぶ造形遊びを推奨しました。

・ 工作教室・折り紙教室・図工教室（毎月） ・ 土粘土（年２回）

（２）昔から続く遊びや行事を重視し、遊び文化の継承に努めました。

・ 子どもの手によるかるたづくり・かるた取り・コマ回し・多様なすごろく遊び

・ 囲碁教室（毎月３～４回 大会への参加）・将棋教室（毎月）

・ ポン抜き大会・餅つき大会・豆まき大会

（３）運動を通して体と頭を育てる機会を様々な場面で展開しました。

・ スポーツ大会（年２回）・中学生ボランティアによる外遊び大会

・ 職員やボランティアとともに楽しむドッジボール・卓球・野球・長縄など（日常）

（４）音楽に触れる体験を大切にし、音楽を楽しめる機会を増やしました。

・ 朝の会で歌を歌う・施設訪問背の歌の発表・保護者会での活動紹介としての歌の発表・キャンドルファイヤーの集いで歌う

・ ボランティアによるミニコンサート（年２回）・高校生によるブラスバンドコンサート

- ・館祭りでのハンドベル演奏やミニコンサート
- (5) 子どもたちの意見を取り入れ、児童館活動をより良いものにしてきました。
 - ・投書箱の常設…一層楽しく遊べるような遊具の補充、使い方の改善、子どもによる遊具の入れ替え
 - ・こども会議を必要に応じて開催…遊び方のルール作り、よりよい友達関係づくり
- (6) 遊具の使い方や片付け方を職員と子どもがともに考え、自主的な遊びにつながるようにしました。
 - ・本の扱い方の注意書き・片付けの習慣化・遊び方のルール作り・遊び道具がどのくらい長く使えたかを意識化
- (7) 1カ月以上かけて子どもとともに準備する、多様な要素を総合した企画行事に取り組みました。
 - ・館祭り…子どもの力を生かし、広く地域の子どもが集まりました。
 - ・介護施設訪問…館紹介・歌発表・手遊び・プレゼント等でお年寄りと交流しました。
 - ・3年生卒館行事…企画から3年生に任せ、児童館の子どもの力を下級生に引き継ぐ機会になりました。
- (8) いじめを児童館でも起こり得ることととらえ、日常的に児童・保護者の声に耳を傾け解決に取り組みました。4月のスポーツ大会を歓迎行事に位置付け、新入生を温かく迎える雰囲気を作り、年間を通じて次の3点を重視しました。
 - ①上学年から下学年へのいじめに注意し、低学年に困ったことはないか随時声掛けする。
 - ②上学年が下学年をいたわる姿勢を育てる。
 - ③いじめの相談を受けたときは職員打ち合わせで情報共有し対策を立てる。
- (9) 子どもの係活動を勧め、児童館運営への関りを広げるようにしました。
 - ・休業中の生活係活動・紙のリサイクル活動・紙コップの使用を減らすエコ活動
- (10) 年度末に児童クラブの保護者にアンケートをお願いし、結果を次の改善に生かしました。
 - ・館の安全を高める取り組み・子どもの参加を増やす方策・連絡ミスを減らす対策

2、親子の絆を強め、子育てを応援する支援事業（赤ちゃんサロン、幼児クラブ）

地域の子育て支援し保護者同士の仲間づくりにもつながる、様々な形態での企画に取り組みました。

- (1) 登録制の幼児クラブ
 - ①親子ともに体を動かし、心身ともに健康になる企画行事に取り組みました。
 - ・リズムあそび・バルーン遊び
 - ・夏の水遊び…夏休み中大勢の小学生が利用する中、幼児向けの夏休み行事として企画

②親子ともに手指を動かし、楽しくなるような創作活動を実施しました。

・写真立てづくり・名札づくり

③最後のクラブの後、保護者アンケートをお願いして次年度に役立てるようにしました。

・1歳児向けのクラブがあるとよい・夏休み中利用しやすい工夫を

(2) 申込制の赤ちゃんサロン

①子育てのノウハウを学び、アドバイスが受けられる行事に取り組みました。

感染症予防講座・離乳食講座

②赤ちゃんの健康な発達に役立つ、歌ったり体を動かしたりする企画を継続しました。

ベビービクス・ベビーマッサージ・わらべ歌遊び・手遊び

③先輩保護者に協力してもらい、幼稚園について具体的なお話が聴ける「幼稚園Q&A」を開催しました。

(3) 随時参加できるぷちぷち遊び

①音楽とともに親子で楽しめる行事を行いました。

・音楽会・ハンドベルサークルの発表・楽器遊び・わらべ歌

②季節が感じられる遊びを行いました。

・赤かぶ植え・七夕まつり・クリスマス会・豆まき会・お雛様作り

(4) 日常的に育児相談ができ、仲間づくりの機会にもなる取り組みを継続しました。

小学生不在の午前中、児童クラブ室を子育てサロン室とし、ランチタイム・無料のカフェタイムを開いて個人・グループで利用してもらいました。

3、地域で子育て、みんなで子育てをモットーにした地域連携。地域の力・ボランティアの力・中高校生の力を生かす取り組み。

(1) 隣接する仙台工業高校と多面的な連携を積み重ねてきました。

①諸行事の中での連携をすすめ、一層の内容充実に努めました。

・ブラスバンド演奏会・こまどりアニメ上映会・「仙台空襲の記録」上映

②ボランティアとして参加してもらい、高校生の幼児・児童理解にも資することができました。

・かき氷の会・館祭り

③2年生全員が家庭科保育単元の学習として児童館で移動教室を実施しました。児童館の仕事内容を知り、実際の乳幼児親子と触れ合う場を作りました。

④高校卒業を祝う作品を子どもが手作りして贈り、感謝の気持ちを伝えました。

(2) 様々な年齢のボランティアの力を生かし、子どもにとってもボランティアにとっても豊かな体験になるような活動を継続しました。

①児童クラブ、幼児クラブの行事を継続的に担ってもらうだけでなく、その年独特の企画を館として支援し、実施してもらいました。

- ・中学生による遊び企画・歌と踊りのミニコンサート・学習についての懇談会
- ②日常的な遊びボランティアを通してボランティアとしても成長できるように次の点に留意して支援しました。
 - ・子どもを触れ合うルールを知ってもらう・各自の得意なことを生かしてもらう
 - ・子どもたちとたつぷりと遊ぶ
- (3) その他、地域にお住まいの方の趣味や得意分野をいかして活動の場を提供しました。
 - ・お描きになった絵画の展示・花壇づくりへの協力・昔遊びの伝授
 - ・ハンドベルサークル「サニーズ」への練習場所や発表の場の提供

4、地域諸団体との連携

- (1) 小学校2校とそのPTA、中学校、保育園、幼稚園、区の家庭健康課、民生委員、町内会の関係者に集まってもらって児童館運営懇談会を年2回開き、次のような内容を通して地域の子育てネットワークの一環を作りした。
 - ・児童館活動への理解を広げる　・児童館への要望を受け取る　・地域の子育てについて情報交換をする　・協力できる取り組みを探る
- (2) 特に小学校との連携を密にし、次のような内容を通して子どもの遊びと発達の支援を進めました。
 - ・個別の子どもについての情報交換　・特別な支援を要する子どもについての話し合い
 - ・校庭の使い方や夏のプール利用についての申し合わせ
 - ・サテライト教室の使い方

5、児童館職員の人材確保と人材育成

子どもの人格形成にまで及ぶ職責を認識して運営に従事するよう人材育成を進めました。

- (1) 職員相互の児童理解を交流し合い、お話の仕方、集会の進め方、行事企画の仕方他、子どもの遊びについて学び合い、児童館運営の研修に努めました。
- (2) 毎週1回全職員会議と毎日実施のミーティングでは、成長していく子どもの姿や課題を確認しました。
- (3) 特別な支援が必要な子どもについて手立てを話し合い、どの職員も見通しを持って支援に当たれるようしました。
- (4) 各機関の実施する講習会や各種研究集会などへも積極的に参加し研鑽を重ねました。
- (5) 子どもの育ちの背景を知るためにも、保護者の働く環境を知ることにも努め、保護者との対話を充実させました。
- (6) 思春期を迎える小学校高学年以上の発達に係る研修にも参加し、今後上学年児童の児童クラブ登録に備えました。

6、事故防止・防犯防災

(1) 事故防止・防犯防災

- ① 毎月1日を安全点検日、また毎月防災訓練を実施しました。その際小学校との連携を重視しました。
- ② 夏休み前に救命救急講習を全職員が受講しました。

(2) 事故・災害・緊急時への対応体制

- ① 非常事態に備えた職員組織体制を確立しています。
- ② 随時事故事例ヒヤリハット事例を報告し合い、対策を立て共有しました。
- ③ 特に校庭の遊び方について、注意点を図示し職員研修を行いました。
- ④ 指揮系統図、連絡系統図、職員分担、災害時対応のフローチャート等の作成、館内全室に緊急時のマニュアルを掲示しています。

(3) 来館児童・来館者の衛生管理

- ① 子どもたちの衛生状態、衛生管理（特に感染症）について、研修会等での学びを交流し情報の還元を行いました。手洗い場・トイレの清掃管理、ペーパータオルの常備、及び、館内外の清掃に努めました。
- ② 外遊びから戻ったときやおやつ前の手洗いなど、日常的に呼びかけました。
- ③ インフルエンザの流行時には、児童館内外に感染症の病気の発生を知らせるポスターを貼り、感染拡大を防ぐよう努めました。
- ④ 冬季は職員が入館する子どもに玄関で手洗いうがいを呼びかけ、確実に実施させ、習慣化しました。

7、施設維持管理面での取り組み

(1) 施設の管理全般

警備保障会社（セコム）と業務委託をし、夜間・休館日の施設管理の徹底を図りました。また組織図に基づいた指揮系統の下に、管理に係る問題発生時は、仙台市並びに関係諸機関に相談連携し、迅速な対応に努めました。

(2) 施設の維持管理に関わる個別業務

開館日の早朝全館清掃は、明光ビルサービスに業務委託し、また年2回の窓掃除（窓ガラス・網戸）と床のワックスがけ清掃を委託しました。また、印刷・コピー・冷暖房・施設内消毒・消火設備点検、樹木の消毒なども業務委託しています。

(3) ごみの減量・エネルギー削減等環境配慮

児童クラブ室に紙の「リサイクル箱」を設置し、子どもにも紙のリサイクルを呼びかけました。

ダンボール等は地域の製紙工場に直接持ち込み、ごみを減量しました。